ミックス
責任ある木質資源を使用した紙
FSC® C016129
www.fsc.org

かさまの自然ガイド

笠間市市民生活部 環境政策課

かさまの自然ガイド

笠間市市民生活部 環境政策課

はじめに

この「かさまの自然」は平成16年より始まった「かさま環境を考える会」と笠間市（開始当時は友部町）による市民対象の自然観察会(年4回：講師は茨城県環境アドバイザーの安見珠子氏・吉武和治郎氏）を行った記録をまとめたもので，「笠間市で記録された動植物リスト」はその際の予備調査で確認した種を中心に文献などを加味して作成しています。

また，茨城県のレッドデータブックに記載されている絶滅危惧種や県立自然公園の指定植物，市・県・国指定の天然記念物については「貴重な生きもの」として一覧にまとめました。（表1. 笠間市の貴重な生きもの一覧）。

以下の観察路紹介のあとに掲載している記録写真のうち「貴重な生きもの」については，種名欄に下記の略号を付して，指定区分を表示しています。

- **Ⅰ**：絶滅危惧Ⅰ類
- **ⅠA**：絶滅危惧ⅠA類
- **ⅠB**：絶滅危惧ⅠB類
- **Ⅱ**：絶滅危惧Ⅱ類
- **準**：準絶滅危惧
- **情**：情報不足1注目種
- **指**：県立自然公園指定植物
- **天**：笠間市 **市**，県 **県**，国 **国** 指定天然記念物

自然観察路の時間は観察しながらのものです。

また，第四章の「笠間市の特定外来生物」は，かさま環境を考える会が令和2年度に作成・発行した「特定外来生物防除マニュアル－笠間 2020－」を概説したものです。

なお，この「かさまの自然ガイド」は「かさま環境を考える会」で作成しましたが，安見珠子氏の協力を得たことを感謝の意を含めて記します。

【表 紙 写 真】ノアザミ，吾国山のブナ紅葉，ミドリシジミ，北山公園 新池の春，市の鳥ウグイス，ミヤマクワガタ，市の木サクラ（ヤマザクラ），佐白山の歌うたい石
【裏表紙写真】愛宕山からの眺望

目　　次

第一章　笠間市の自然概観 …… 1
第二章　主な自然観察の道 …… 2
1. 笠間湖 …… 5
2. 朝房山 …… 11
3. 福ちゃんの森公園 …… 19
4. 仏頂山 …… 25
5. 佐白山 …… 31
6. 稲田神社 …… 45
7. 北山公園･天神の里 …… 51
8. 加賀田山･館岸山 …… 67
9. 吾国山 …… 77
10. 難台山 …… 83
11. 愛宕山 …… 95
12. 野口池湿原 …… 109
13. 不動谷津池 …… 115
14. その他の観察地での記録 …… 119
第三章　笠間市の貴重な生きもの …… 121
第四章　笠間市の特定外来生物 …… 127
第五章　笠間市で記録された動植物 …… 129
第六章　笠間市の自然や生きものに関する文献・書籍 …… 129
笠間市で記録された動植物リスト …… 131
笠間市周辺で見られる主な地衣類の検索表 …… 147

第一章　笠間市の自然概観

笠間市は関東平野の北東部，茨城県のほぼ中央部に位置します。北と西側は山地が多く，八溝山地に属する吾国山（518㍍）や難台山（553㍍）などがあります。中央部には人家が多く，南部は台地や低地が広がって，田畑になっています。

北西側に山や丘を背負い，湧き水が流れ出している場所では，往々にして神社か旧家があり，巨木が守られ，暖地性植物も多く見られます。

友部地区の北東部の山内山（200㍍）や高峠（184㍍），和尚塚（105㍍）などは八溝山地鶏足山塊に属し，その南側は友部丘陵と呼ばれる丘陵地帯です。

南西部は八溝山地筑波山塊の東端に位置する金毘羅山（228㍍）や富士山（128㍍）などがあり，友部地区の約35％が山地です。JR常磐線より南東部は標高30～40㍍の台地が広がり，南部は涸沼川に沿って標高約10㍍の低地になっています。友部地区の山地部はスギ・ヒノキなどの針葉樹の植林地が多く，コナラなどの落葉広葉樹林は少ない。平地部のほとんどは住宅地と農耕地で，小規模の社寺林や湿地が点在しています。社寺林には友部地区が常緑照葉樹林（暖温帯林）に属することを示すようにスダジイやシラカシなどが生育し，巨樹もみられます。湿地ではモウセンゴケやカワモズク，トウキョウサンショウウオ※及び清冷な水質に生息するシマドジョウやホトケドジョウなどもみられましたが，最近は見られなくなりつつあります。

笠間地区の西部は栃木県と接し，周囲は山や丘陵地に取り囲まれて盆地状となっています。佐白山（182㍍）や仏頂山（431㍍），吾国山（518㍍）などは暖地性の生きものの分布の北限地になっていて，山頂部にはブナなどの温帯性の生きものが見られます。北西端部の国見山（392㍍）から流れ出る涸沼川がその中央部を南へ流れ，流域は水田になっています。福田地区の湿地ではオゼイトトンボやハッチョウトンボが飛び交い，山林内部の湿地ではトウキョウサンショウウオ※やイモリが生息しています。稲田地域は花崗岩の採石場が多く，“稲田のみかげ石”として全国的に有名です。

岩間地区は北側に館岸山（256㍍）など，西側に難台山（553㍍）や鐘転山（218㍍）などの山があり，南東部に巴川が流れていて低地となっています。愛宕山（306㍍）にはキジョランやウラジロなどの暖地性植物が多いです。涸沼川と巴川の間の丘陵地には低層湿原が点在し，特に，野口池湿原にはミミカキグサ類やミズトンボなどの貴重な生きものが生育しています。

第二章　主な自然観察の道

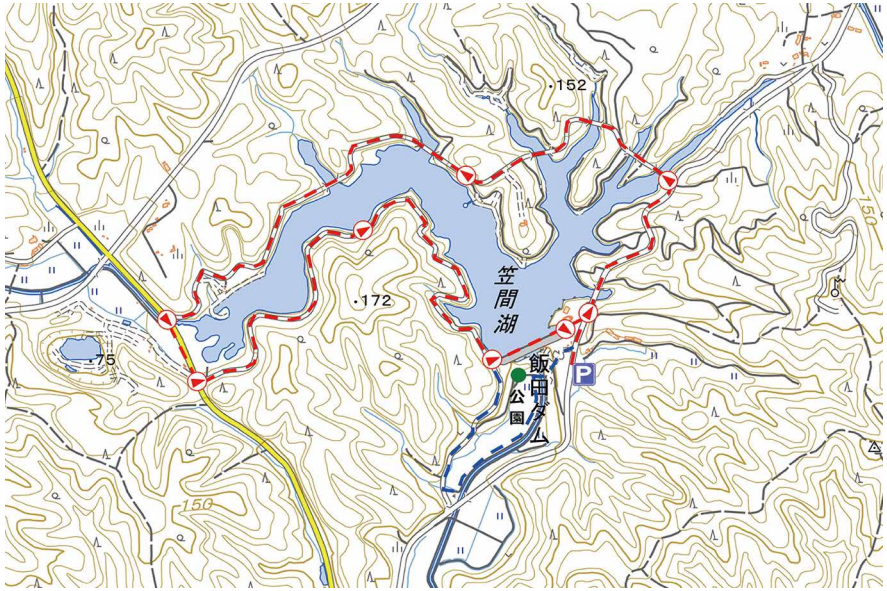
笠間市地図

橋爪から見た加賀田山

橋爪から見た吾国山

1. 笠間湖［湖岸を1周する道］

笠間湖



笠間湖を1周する道

飯田ダム管理事務前駐車場を発着地として笠間湖を1周する道です（1周約170分）。

飯田ダムは涸沼川の支流飯田川をせき止めて造った多目的ダムで，平成4年（1992）に竣工しました。飯田ダム管理事務前にお手洗い所があり，その下に駐車場があります。

笠間湖の外側の多くは斜面になっており，カエデ類やコナラ，スダジイ，ホオノキ，ヤブツバキなどからなる混交林です。

周遊路は上り下りがほとんど無いので，キンランなど道の両側の草花を愛でながら，のんびり歩けます（時々車が通りますのでご注意を）。

なお，ダム下の公園や周辺の田畑の畦道も観察に良いです。

ダム管理事務所

紅葉の笠間湖

紅葉を愛でながら

湖畔の散策路

アオツヅラフジ
2007.10.20

イタヤカエデ
2016.11.26

ウリカエデ（実）
2013.05.02

エゴノキ（実）
2013.09.09

オケラ
2019.07.26

準 **キクタニギク**
2016.11.26

ギンリョウソウ
2018.05.17

Ⅱ **クチナシグサ**
2013.05.18

グンバイナズナ
2013.05.18

コシオガマ
2007.10.20

シロバナニガナ
2018.05.17

タツナミソウ
2018.05.17

ツルニンジン
2013.09.21

ニガナ
2013.05.18

ヌルデ（ふし）
2007.10.20

ノイバラ
2018.05.17

ハンショウヅル
2013.05.18

フジ
2013.05.18

ママコノシリヌグイ
2013.09.21

クラマゴケ
2018.05.17

IB **サイゴクベニシダ**
2013.05.18

キウメノキゴケ
2016.11.26

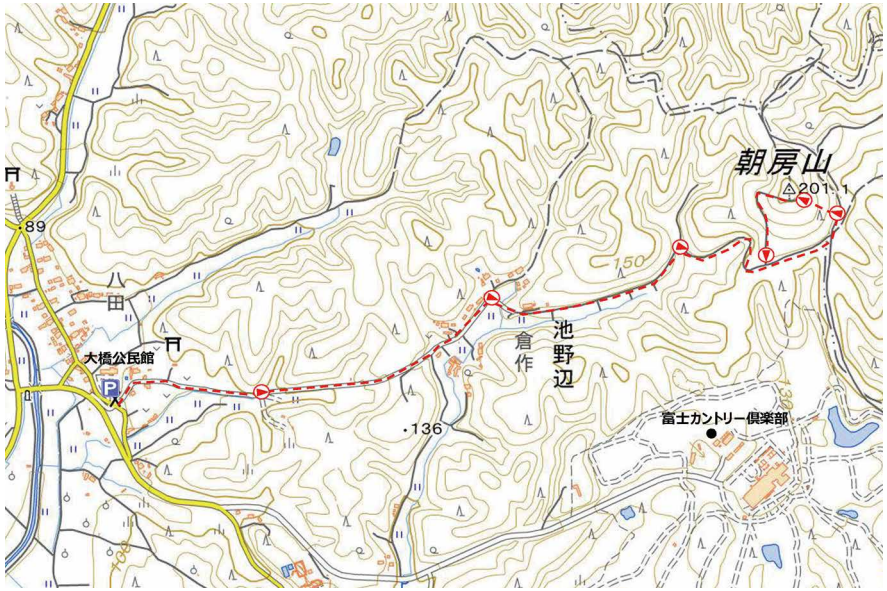
準 **オシドリ**
2016.11.26

アカズムカデ
2019.07.16

2. 朝房山

2－1　朝房山［南面を山頂まで往復する道］

朝房山山頂の石碑



南面を山頂まで往復する道

笠間市の北東部に位置し，昔はくれふしのやまと呼ばれた水戸市との境界の山です。

大橋公民館を発着地として，東へ車道を歩き，倉作を経て朝房山の南側から山頂（201㍍）に登り，同じ道を戻る道です（登り約120分。下り約60分）。

道の両側の植物を見ながら歩くことになりますが，倉作集落は郷愁を感じる景色です。

集落を抜けて，谷津田と丘陵地の間の農道をのんびりと歩きます。

山林内の道は次第に上り坂になり，水戸市との境を歩きます。

山頂下の小さな鳥居をくぐると傾斜が強くなります。山頂部は木々に囲まれた草地で，マンリョウやミヤマフユイチゴ,フタリシズカ,ギンリョウソウなどが見られます。

昔々，この山がもっと南にあったとき「朝寝坊山」と呼ばれていたが，それをダイダラ坊が今の位置に運んだという民話があり，山頂部にはダイダラ坊の石碑があります。

また，ここには村の娘が蛇の子を生んだという伝説があり，頂上に蛇神を祭る朝房権現があります。

里山の道を行く

山頂の小祠

鳥居をくぐって山頂へ

2－2　朝房山南の谷津田［南の谷津田の縁をあるく道］

農業用水池の岸で

南の谷津田の縁をあるく道

朝房山南の里山と谷津田の間を歩く道です（1周約90分）。

水戸市との境で，池野辺にあるギャラリー・アボッケ跡から軽舗装の道を南西にゆっくり下ります。

道は里山と谷津田の間を北に進路を変えます。春にはキンラン，秋にはヒヨドリバナやゲンノショウコ，キバナアキギリなどが見られます。

春先はトウキョウサンショウウオ※の卵のうが見られます。

さらに坂を東に上ると，未舗装の林道に出ます。そこを右折してコナラなどの雑木林の中を南に進むと，ギャラリー・アボッケ跡に戻ります。

なお，未舗装の林道を左へ行くと，朝房山頂下に至ります。

「これはネナシカズラです」

ここから先は草深い道となる

ここで一休み

覆いかぶさる草木をかき分けて

ウマノアシガタ
2010.05.21

カキドオシ
2016.03.19

準 **キクタニギク（アワコガネギク）**
2019.11.16

キリンソウ
2008.05.17

準 **キンラン**
2010.05.21

クサノオウ
2010.05.15

コウゾリナ
2010.05.15

ネナシカズラ
2012.09.15

ハナイカダ
2010.05.15

ヒメコウゾ
2010.05.15

フタリシズカ
2010.05.21

ホタルカズラ
2010.05.15

ボントクタデ
2012.09.15

ミズタマソウ（実）
2012.09.15

ミゾソバ
2012.09.15

ミミガタテンナンショウ
2008.05.17

ムラサキシキブ（実）
2019.11.16

ヤブコウジ（実）
2019.11.16

ウラジロ
2016.03.19

ホソバトウゲシバ
2010.05.15

ロウソクゴケ
2019.11.06

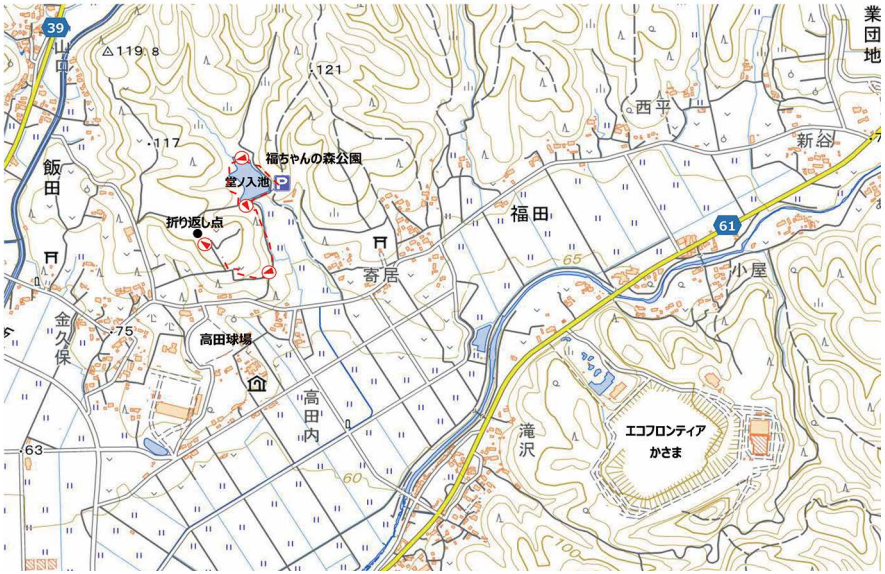
ヒトクチタケ
2010.05.15

シュレーゲルアオガエル
2008.05.17

チャバネセセリ
2012.09.15

3. 福ちゃんの森公園［堂ノ入池畔を1周する道］

空から見た福ちゃんの森公園



堂ノ入池畔を1周する道

笠間市北部に位置する福田にあり，県道39号と61号に挟まれた谷津田状の場所に作られた福ちゃんの森公園を中心に歩きます。

集会所から堂ノ入池を周遊する舗装道を1周して，福ちゃんの森公園入口付近の丘陵地まで足を伸ばす道です（1周約150分）。

公園には，お手洗いや駐車場の他に集会所や屋外集会所，バーベキュー施設，ドッグランなどが整備されています。

春にはキンランやササバギンランなどが見られ，秋には湿地にミゾソバやツリフネソウが美しく咲きます。

これはアオハダです

堂ノ入池を背に

沢の入り口で観察

堂ノ入池畔を1周する遊歩道

アキノノゲシ
2020.10.06

イカリソウ
2019.05.18

イヌガラシ
2020.10.06

オトコエシ
2020.10.06

オヘビイチゴ
2019.05.18

カントウヨメナ
2020.10.06

キツネアザミ
2019.05.18

コウヤボウキ
2020.10.17

コバノガマズミ（実）
2020.10.17

ササバギンラン
2019.05.18

スズメノエンドウ
2019.05.18

ツリガネニンジン
2020.10.06

ツリフネソウ
2020.10.17

トキリマメ（実）
2020.10.06

ネコハギ
2020.10.06

準 **ミズオトギリ**
2020.10.06

ヤブツルアズキ
2020.10.06

ヤブマメ
2020.10.06

ヤブラン（実）
2021.11.06

ヤマハギ
2020.10.06

カニクサ
2020.10.06

ゲジゲジシダ
2021.11.06

ホコリタケ
2020.10.06

ヨコヅナサシガメ
2020.10.06

4. 仏頂山［楞厳寺から山頂往復］

早春の仏頂山を望む

楞厳寺から山頂往復

笠間市の北西部に位置し，茨城県と栃木県との県境にある仏頂山（431㍍）を，東面の楞厳寺を発着地として「関東ふれあいの道」を歩いて，仏頂山頂を往復します（登り約120分，下り約60分）。

楞厳寺周辺は「笠間県立自然公園」で，楞厳寺の裏山は中腹までカシ類，スダジイの常緑広葉樹林で，「ヒメハルゼミ発生地」があります。

中腹以上はイヌブナやアカシデ，カエデ類の落葉広葉樹林になり，春にはエンレソウなどが楽しめます。

ヒノキ林内の階段の多い急な坂を登ると山頂に至りますが，細い巻道もあるので往復で違う道を通ると変化を感じることができます。

時間があるときは，山麓の楞厳寺のお庭を拝見させて頂くと，クモランなどの着生ランも見られます。

楞厳寺の裏山は北限のヒメハルゼミ発生地として，国の天然記念物に指定されています。

重要文化財の山門

楞厳寺境内を散策

もう一息で山頂

初夏のハイキングコース

準 指
カヤラン
2021.07.30

ギンレイカ
2021.07.20

IB 指
クモラン
2020.07.20

シュンラン
2002.03.21

シラヤマギク
2017.09.16

ツチアケビ（実）
2015.08.04

ツノハシバミ（実）
2007.08.18

II 指
ツルギキョウ
2015.09.15

IB 指
ナガハシスミレ
2008.04.05

ナガバノコウヤボウキ
2017.09.18

ヒナスミレ
2003.04.13

マツカゼソウ
2017.09.11

ミヤマカタバミ
2008.04.05

モミジイチゴ
2018.04.05

Ⅱ 指 **ユウシュンラン**
2004.04.17

準 指 **ヨウラクラン**
2021.07.20

ウチワゴケ
2021.07.20

ヒカゲノカズラ
2021.07.20

Ⅰ **キンブチゴケ**
2009.09.30

ヒラタケ
2017.09.11

アズマヒキガエル
2015.08.04

オオシオカラトンボ（♀）
2021.07.30

センチコガネ
2017.09.11

天 国 **ヒメハルゼミ**
1973.07.09

5. 佐白山

5－1　佐白山［山頂への道］

佐白山山頂を望む

佐白山山頂への道

稲荷駐車場を発着地として，山ろく公園から城址公園を通って，佐志能神社（182㍍）に登り，石倉・城址公園・千人溜を経て車道を戻る「笠間県立自然公園」内の道です（登り約90分。下り約70分）。

日動美術館脇の稲荷駐車場から山ろく公園に上がり，コナラやアカシデなどの落葉広葉樹林内の山道を城址公園に登ります。

さらに，岩が多い道を急登すると山頂（182㍍）に着きます。

山頂にはシデ類やカエデ類に囲まれた佐志能神社があります。

テイカカズラが絡み付いた神社の裏手から東へヒノキやアカマツの林の中の急な坂道を下ると石倉に着きます。

そこから西へ緩やかに登ると城址公園の上部に戻ります。

さらに西へ石段の多い道でマメヅタなどを愛でながら下るとカシ類やスダジイの常緑広葉樹に囲まれた千人溜に至ります。

その先は車道を北西に進み，つつじ公園につきあたったら，南西にスダジイの多い林の中を緩やかに下ると，稲荷駐車場に至ります。

佐白山には北限に近いシダ植物のヒトツバが生育しています。

佐白山の名前は「この山を白いきじと白いきつねと白いしかが神様の使いとして仲良く守っていたので『三白山』と呼ぶようになったが，何時とはなしに『佐白山』と表すようになった」と伝えられています。

山ろく公園での観察

山頂の佐志能神社

5－2　佐白山［水源を通る道］

大黒石を見上げる

水源を通る道

稲荷駐車場を発着地として山ろく公園から西へ水源（源流コース）を通り大黒石，千人溜を経て本丸広場に上がり，山林の中の小径を山ろく公園に下る「笠間県立自然公園」内を歩く道です（1周約180分）。

稲荷駐車場にお手洗いがありますが，途中にはありません。

逆の順路でも結構ですし，余力がある方は佐白山頂に登るのも良いでしょう。

水源への道はカシ類やスダジイなどの常緑広葉樹林内の道で，シダ植物が豊富で，鬱蒼とした感じがあり，晩春にはキンランやウマノアシガタなどが楽しめます。

春の水源付近にはトウキョウサンショウウオ※の卵のうも見られますが，春から秋は，マムシにも出会いそうな環境なので注意が必要です。

水源から舗装道に上がり大黒石を見ながら千人溜駐車場に上がります。

大手門を通って本丸広場に上がります。

下りは林の中の山道で，山ろく公園をへて駐車場に戻ります。

大黒石の解説板

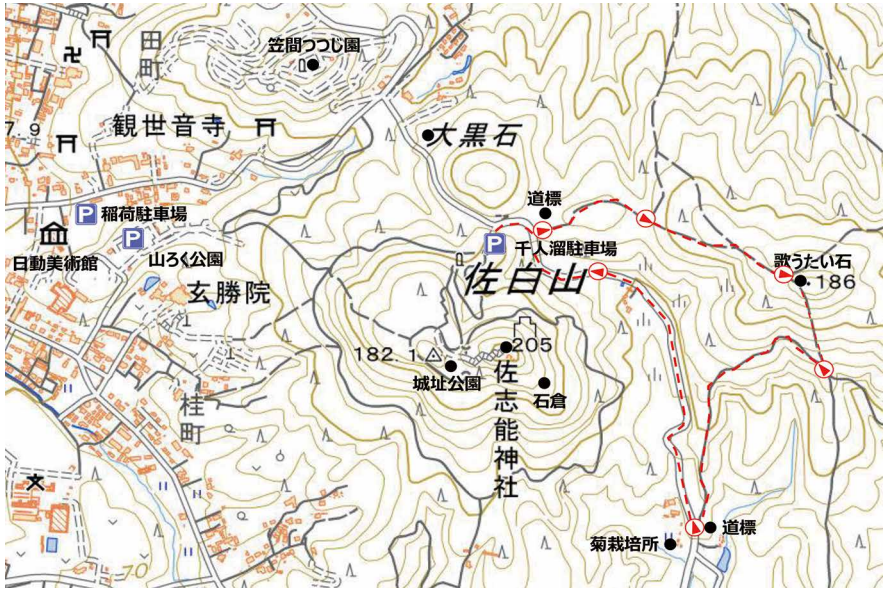
沢沿いの道を登る

山頂への石段

城址公園の広場を散策する

5－3　佐白山［歌うたい石の道］

歌うたい石



歌うたいの道

「笠間県立自然公園」内の千人溜を発着地として歌うたい石を回って笠間市菊栽培所に下り，千人溜に戻ります（1周約120分です）。

ここにはお手洗いがありませんので，稲荷駐車場で済ませて下さい。

歌うたい石への東西の入口には，稲田石の小さな道標があります。

道はシラカシやスダジイの他，リンボクやサカキ，ヒイラギ，マンリョウ，ヤブツバキなどの暖地性常緑樹の中の林の中を歩きます。

歌うたい石は花崗岩の大石で，昔「都から流された公家がこの石の上で，都を偲んで和歌を詠んだので，『歌読石』と言われていたのが，いつの間にかこの名になった」という民話があります。

その周辺にはウラジロの大群落やコシダ，ホラシノブ，フユイチゴ，サカキ，イズセンリョウなどの暖地性植物が豊富な場所もあります。

山道から北山と大黒石を繋ぐ道を戻ります。

この道では，カラタチバナやサイハイラン，マンリョウ，サネカズラ，カヤラン，ヤマユリなどが見られ，オオムラサキ，タシロラン，オオヒキヨモギなど希少な生きものに会うこともあります。

歌うたい石への入り口

シダの多い林道を歩く

ウラジロの大群落

5－4　佐白山［鉢巻きの道］

樹林の中の鉢巻の道

佐白山鉢巻の道

千人溜駐車場を発着地として佐白山頂部をぐるりと鉢巻き状に作られた道を歩いて，城址公園に上がり，駐車場に戻る道です（1周約120分）。

この道は以前，車で千人溜駐車場から城址公園に上がるために造られた道ですが，現在は車の進入は禁止されています。

千人溜駐車場から西へ，関東ふれあいの道を道なりにスダジイなどの常緑樹林を歩きますが，キンランやギンラン，フタリシズカ，ギンリョウソウの他ウラジロなどが見られます。

途中で，山ろく公園から城址公園に上がる道と交差して南東へ向かいます。

この付近はスダジイやシラカシの大木が多い林の中の道です。

中間点が最南端で，南の集落に下りる道がありますので入らないように。

道は北東に向かい，さらに北西へ向かうと上り坂の傾斜がきつくなります。

千人溜駐車場から上がってくる道に至ると，トンネルがあります。

石垣に着いたマメヅタなどを見ながら上がると城址公園に着きます。

余力がある方は，佐白山頂に登り，東側へ下って石倉に上がって，南西への小径を緩やかに上がると笠間城天守閣跡の石碑のところに戻ります。

千人溜駐車場

マメヅタに覆われた石垣

中間地点で一休み

準 イズセンリョウ
2014.02.26

IB 指 ウスギムヨウラン
2008.06.21

ウワバミソウ
2017.05.20

オドリコソウ
2017.05.20

準 指 カヤラン
2014.03.08

準 指 キンラン
2021.05.08

ギンリョウソウ
2021.05.08

指 クモキリソウ
2017.06.12

IB 指 クモラン
2014.03.08

ジシバリ
2017.05.20

情 タシロラン
2022.07.19

タマアジサイ
2008.08.30

準 指 ツクバキンラン
2017.05.20

ツリバナ（実）
2016.07.16

ツルニガクサ
2014.07.19

ハエドクソウ
2014.07.19

ムラサキニガナ
2014.07.19

Ⅱ リンボク
2014.03.08

指 ウラジロ
2016.07.16

準 オオキジノオ
2021.04.30

指 キジノオシダ
2021.05.08

指 コシダ
2016.07.16

シシガシラ
2021.05.08

ナガバヤブソテツ
2021.04.30

ノキシノブ
2016.07.16

IA **ヒトツバ**
2017.01.14

ベニシダ
2021.05.08

ホラシノブ
2014.03.08

マメヅタ
2021.04.30

リョウメンシダ
2008.06.21

アオバゴケ
2014.02.26

ウメノキゴケ
2006.08.19

ウラジロゲジゲジゴケ
2014.02.26

II **オオムラサキ**
2016.07.16

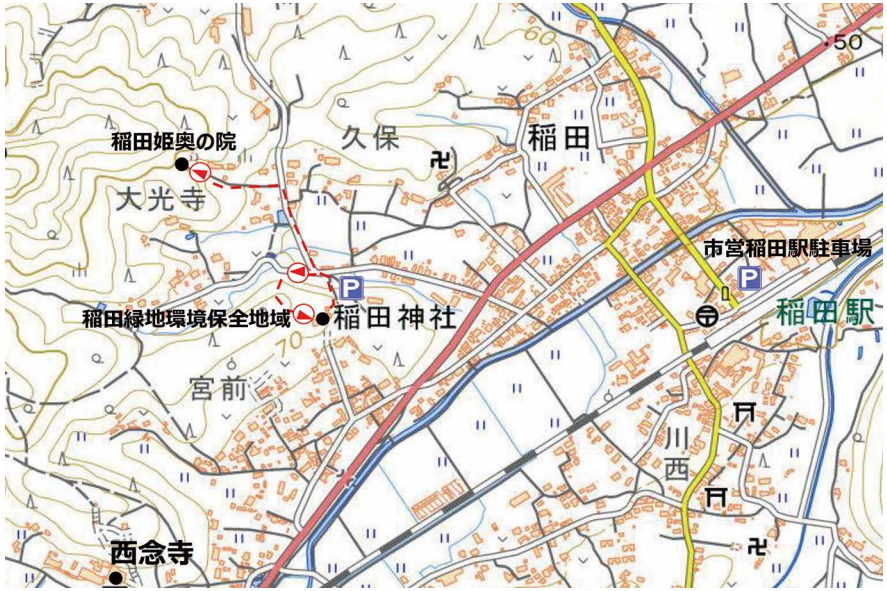
ノコギリクワガタ
2016.07.16

ハサミツノカメムシ
2014.07.19

6. 稲田神社

6－1　稲田神社［稲田神社と稲田姫奥の院境内を歩く道］

稲田神社境内にて



稲田神社と稲田姫奥の院境内を歩く道

稲田神社境内及び稲田姫奥の院の社寺林を1周する道です（1周約160分）。

笠間市の北西部にある稲田神社本殿脇の駐車場から北側に下り，社寺林の外側を走る車道を西に巻きながら林に入ります。

「稲田緑地環境保全地域」のスギ林の中を南に進んで社寺林に入り，モミやコナラ，クヌギなどの混交林の中を南東に歩くと，神社の裏に出ます。

カシワバハグマやヒヨドリバナなどを見ながら社殿横に戻ります。

石碑にキウメノキゴケやマツゲゴケ，ツブダイダイゴケなどの地衣類が着生しています。

稲田神社の北約500㍍の谷間のような所に稲田姫奥の院があります。

奥の院は狭い場所ですが，斜面にサカキやササクサ，ヒイラギ，フユイチゴ，マンリョウ，ウラジロなどが見られます。

なお，両者の間の路傍にはヒメキンギョソウやメリケンカルカヤなどの外来植物が見られます。

「稲田」の地名は奥の院にある「好井」の泉から流れ出る水が小さな三枚田を潤し，ここでとれたイネが神前に供えられる。神に供える稲をつくる田があることから付けられたと伝えられています。

余力があれば，すぐ西にある西念寺まで足を伸ばすと良いでしょう。

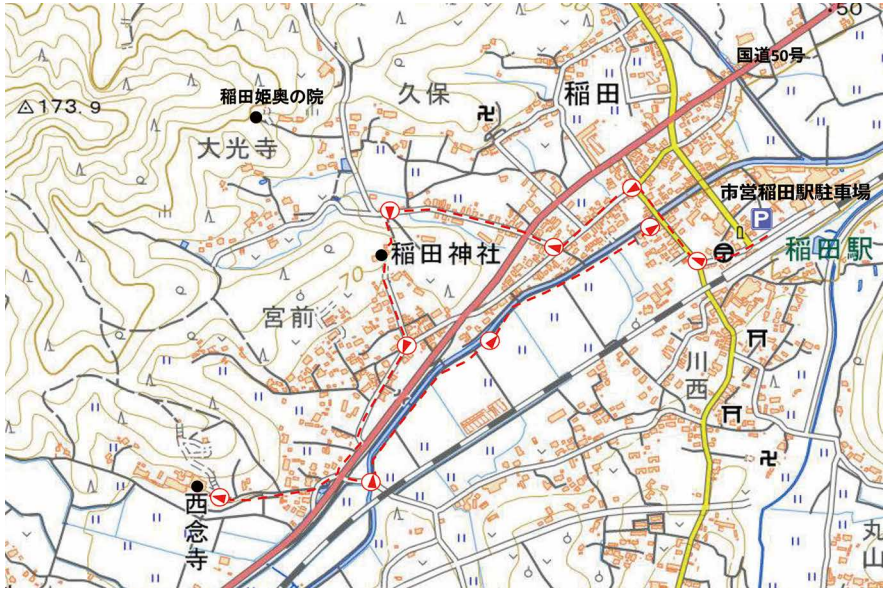
好井の泉

小さな三枚田を見る

質素な稲田姫奥の院社殿

6－2　稲田神社［稲田駅から稲田神社と西念寺を歩く道］

西念寺境内



稲田駅から稲田神社と西念寺を歩く道

水戸線の稲田駅を発着地として稲田神社・西念寺を歩く道です（1周約160分）。

稲田駅から北西へ進んで国道50号を渡り，人家や畑の間の道を進んで稲田神社に裏から上がります。

稲田神社は延喜式にも記された格式のある神社で，その境内は稲田緑地環境保全地域になっていて，ウラジロも生育し，秋にはキバナアキギリなども楽しめます。

稲田神社を背に石段を下り，大きな石の鳥居をくぐって，西に向かうと西念寺に着きます。親鸞聖人の稲田草庵があった場所で，浄土真宗の別格本山です。

西念寺を背に国道50号を渡り，水戸線と国道50号の間を流れる稲田川に沿って東へ歩き，稲田駅に戻ります。

駅の横に「石の百年館」があり，稲田石の歴史などが展示されています。

稲田神社スダジイ

稲田神社の大鳥居

西念寺の山門

紅葉の西念寺参道

天 県 お葉つきイチョウ
2017.11.18

クマイチゴ（実）
2019.06.12

コウヤマキ
2010.09.18

サカキ
2010.09.18

スダジイ
2010.09.18

ツルウメモドキ（実）
2017.11.18

フユイチゴ（実）
2017.11.18

ヤシャブシ（実）
2019.06.21

オオハナワラビ
2017.11.18

Ⅱ コヒロハハナヤスリ
2017.11.18

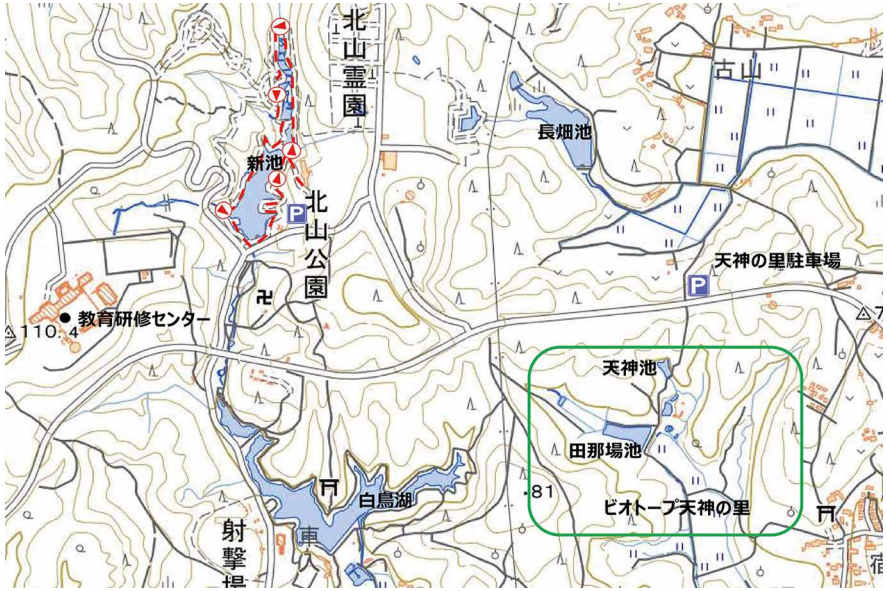
イワクニイボゴケ
2017.11.18

ヤマトタマムシ
2010.09.18

7. 北山公園・天神の里

7－1　北山公園［新池畔を1周する道］

初夏の新池



新池を1周する道

北山公園の駐車場を発着地として「笠間県立自然公園」の北山公園内の新池畔をゆっくり1周する道です（1周約90分）。

北山公園休憩施設の西隣の新池に下って，その湖畔を周遊します。

コナラやハンノキなどの落葉樹林に囲まれた道で，春はナルコユリやマキノスミレなどスミレ類の花も見られます。

早春には北端からの湧き水の流入部でトウキョウサンショウウオ※の卵のうやカワモズクが見られます。

夏は涼を求めてヤマユリなどを楽しみ，晩秋は美しい紅葉狩りができます。

なお，栽培種が好きな人には，ミズバショウやアヤメ，ハスなどが植栽されているので，散歩がてらの観察に適しています。

コナラの大木

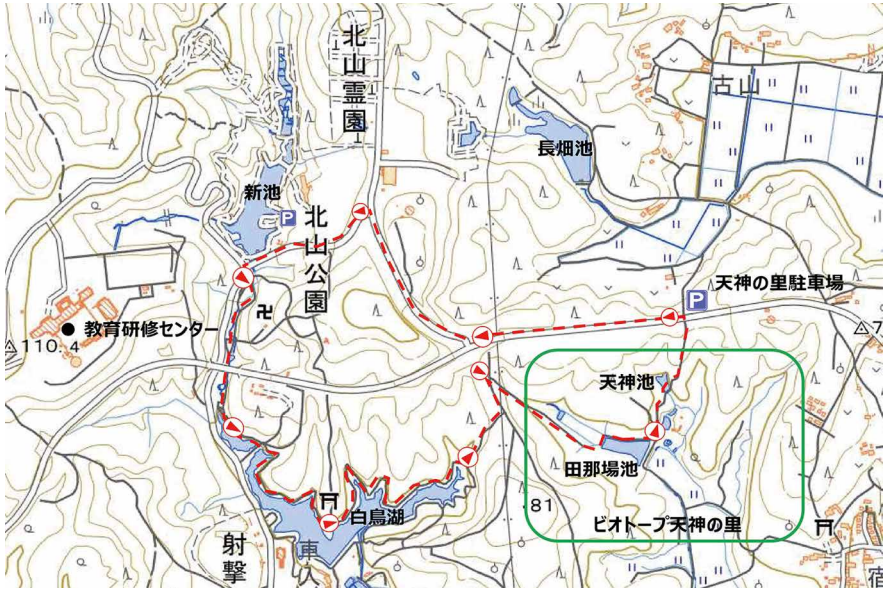
池畔の散策路

眺望360度の展望台

トウキョウサンショウウオ※卵のうの観察

7－2　北山公園［天神の里をまわる道］

夏の白鳥湖



白鳥湖から天神の里をまわる道

北山公園の駐車場を発着地として白鳥湖（弁天池）畔を通ってビオトープ天神の里に行き，車道を通って戻る道です（1周約160分）。

「笠間県立自然公園」内の北山公園休憩施設から車道を通って，階段を下りると流れに沿った林の中の道を歩きます。

白鳥湖（弁天池）の東側で，白鳥湖を巡る割合広い遊歩道に出ます。

晩春にはササバギンランやコアジサイ，ナツハゼ，ツルアリドウシなどが生え，秋は紅葉が見事です。

右手に白鳥湖（弁天池）の東南端が見える所が分岐点で，そこを左に曲がってアラカシの多い林に入ると道が狭くなります。

ナガバノコウヤボウキやリンドウなどを愛でながら緩い坂を北東に上るとヒノキ林の中で尾根状の小径に出ます。

そこを少し左に進むと，東へ下る小径があり，マンリョウなどの暖地性植物やトウゲシバなどを見ながら下ると，田那場池上の谷津田脇に出ます。

田那場池の横を通って行くとビオトープ天神の里に至ります。

スギ植林地の中の小径を緩やかに登ると車道に出ます。

車道を左へ緩やかな上り坂を歩くと北山グラウンドが見えてきて，北山公園休憩施設前の駐車場に戻ります。

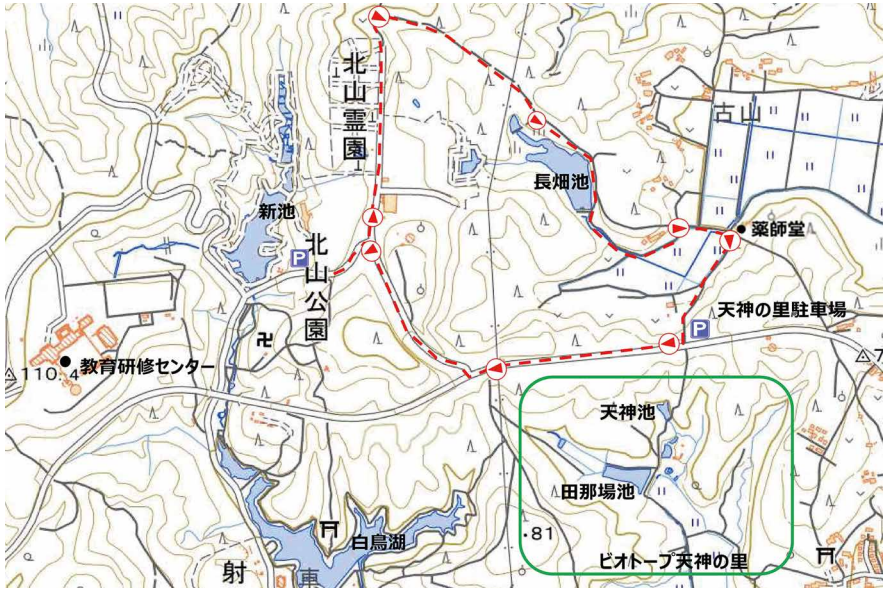
新緑の白鳥湖畔を歩く

ビオトープ天神の里入り口

天神の里でメダカを観察

7－3　北山公園［長畑池をまわる道］

長畑池



長畑池をまわる道

北山公園を発着地として北山霊園を経て，長畑池や古山の薬師堂を通って北山に戻る道です（1周約140分）。

北山公園休憩施設から北山霊園脇を北上し，クヌギ林の中の小道を東南へ緩やかに下ると長畑池に着きます。

その周辺の湿地を眺め，秋にはノコンギクやヤマハギなどを見ながら長畑池の北東岸を経て水田脇の道沿いに歩くと薬師堂に着きます。

スギ林の中の急な坂道を上ると車道に出て，左に天神の里駐車場があります（そのまま車道を横切って，林の中の小径を下ると天神の里に至ります）。

舗装道を右（西）へ進むと北山グラウンドの東端に着き，北山公園休憩施設はその左先です。

山の神様

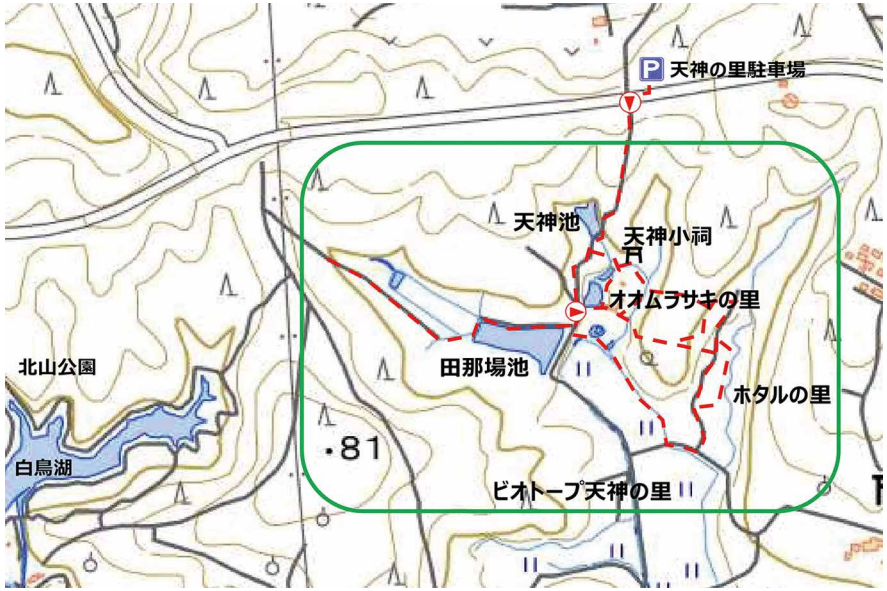
北山霊園のわきを通って

古山集落の道を歩く

長畑池に到着

7－4　天神の里［ビオトープ天神の里を歩く道］

早春のビオトープ天神の里



ビオトープ天神の里を歩く道

天神の里は友部駅北西約1㌔にある天神池を水源とした休耕地などを利用したビオトープで，「昭和中期の自然を甦らせよう」と地元の人々が作りました。

ここは天神池や湿地，休耕田，山林からなり，四季折々の自然が楽しめます。

道はいろいろ取れますので，時間と脚力にあわせて歩いて下さい。

南友部から北山公園に至る車道の中間部に，道路に接した駐車場があります。

駐車場の少し西側に「天神の里入口」の道標があり，林の中の小径を下ると，天神池が右手に，天神の里の湿地や休憩小屋が左前方に見えてきます。

湿地の木道を歩くと，早春はトウキョウサンショウウオ※やヒキガエルの卵のうが見られ，友部地区では珍しい暖地性のコモチシダ，ミズワラビやタコノアシなども見られます。

ハンノキが生える池ではメダカが泳ぎ，ヒキガエル（がまがえる）がのっしのっしと歩く姿も見られ，マンリョウやヒイラギなど暖地性の植物の他，キンランやギンランも見られます。

田那場池畔のヤエザクラ

休憩施設があるオオムラサキの里

サンショウウオの卵のうを観察

整備が進むホタルの里

準 アリアケスミレ
2017.04.07

イチヤクソウ
2021.05.28

準 オオニガナ
2013.10.10

オオバノトンボソウ
2016.07.02

キバナアキギリ
2021.09.24

準 ギンラン
2020.05.11

コアジサイ
2018.05.19

準 コオニユリ
2020.07.19

サイハイラン
2015.05.26

Ⅱ サワオグルマ
2014.05.03

準 サワシロギク
2015.10.12

準 ジガバチソウ
2017.06.06

スミレ
2005.04.27

準 指 タカクマヒキオコシ
2002.10.14

準 タコノアシ
2022.08.25

準 タムラソウ
2019.09.15

Ⅱ トウゴクヘラオモダカ
2014.08.13

ヌマトラノオ
2005.08.04

ハクウンボク
2005.05.25

ハナタデ
2019.10.05

フデリンドウ
2005.04.27

マキノスミレ
2005.04.05

ママコナ
2002.06.06

マルバスミレ
2017.04.07

準 ミズオトギリ
2007.08.18

ミヤマウズラ
2017.08.26

準 指 ムヨウラン
2015.05.26

IB モウセンゴケ
2016.07.25

ヤマボウシ
2002.05.29

指 ヤマユリ
2002.07.15

準 ヤマラッキョウ
2021.10.23

指 リンドウ
2010.11.20

コモチシダ
2017.09.19

カワモズク
2020.04.02

コモジゴケ
2014.05.13

チャシブゴケ
2014.05.13

準 カイツブリ
2012.06.27

カワセミ
2016.06.14

準 トウキョウサンショウウオ※
2007.11.14

準 トウキョウサンショウウオ※(卵のう)
2020.04.02

準 メダカ
2007.04.08

準 アオハダトンボ
2008.08.02

準 キイトトンボ
2008.08.02

準 サラサヤンマ
2007.06.12

準 オオムラサキ（♂♀）
2010.07.03

準 ゲンジボタル
2012.06.15

ミヤマクワガタ
2021.09.24

準 マルタニシ
2013.08.21

8. 加賀田山・館岸山

8－1　加賀田山［宍戸ヒルズCC側から山頂に登って戻る道］

矢野下地区から望む加賀田山

宍戸ヒルズＣＣ側から山頂往復の道

加賀田山（410㍍）は笠間市の南西部に位置し，岩間地区と笠間地区の境界にあり，北山あるいは真南山と呼ぶ人もいますが，地図上では名前はありません。

国道355号から宍戸ヒルズCCのクラブハウス横を西へ進み，石倉山の南麓付近で道は3つに分かれます。

中央の林道（南山内林道）入口は，鎖で車の進入は止められています。ここを発着地としてこの林道を歩きますが，駐車場もお手洗いもありません（往復約180分）。

「吾国愛宕県立自然公園」内のヒノキの植林地（長峰国有林）の中の沢に沿ったり，渡ったりして林道を緩やかに上がりますが，晩春にはサンコウチョウの声を聞きながらキンランなど，夏にはヤマユリやヤマジノホトトギスなどが楽しめる道です。

沢の源流部を渡ると道は緩やかな上りになり，道が大きく左へ曲がります。

そこで林道と分かれて左の雑木林の中の急坂（入口が分かりづらいので注意が必要）を登ると，尾根（383㍍）に上がります。

南（左）側に岩間地区の伐採地を見て尾根を西に向かうと，間もなく頂上に着きます。

北東に石倉山（127㍍），東に金毘羅山（228㍍）があります。

また，加賀田山山頂から尾根を南東に進むと，館岸山（256㍍）に至ります。

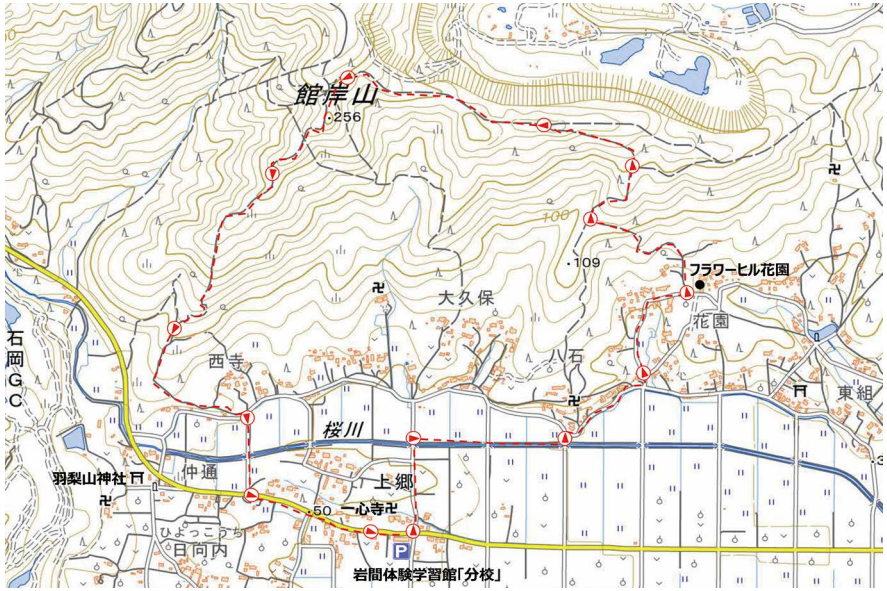
草深い林道を進む

しのだけに覆われた山頂

山頂へのとりつき口　今日はここまで

8－2　館岸山［尾根道で山頂を縦走する道］

花園集落から望む館岸山



尾根道で山頂を縦走する道

岩間体験学習館「分校」（岩間第一分校跡）を発着地として花園集落を通って山頂（256㍍）に登り，西寺集落に下って体験学習館「分校」に戻る道です（1周約170分）。

家並みの奥の山林はほとんど「吾国愛宕県立自然公園」に含まれています。

岩間体験学習館「分校」から農道を北東方向に向かって進み，花園集落から山道に入ります。

スダジイやシラカシにコナラ，スギなどが混じる林の中の小径を緩やかに上がると尾根に出ます。

尾根道の北側は採石場なので，注意しながら西へ緩やかに上ります。

南北に分かれる三叉路に至ると，南へ下り，少し上ると間もなく山頂に着きます。（なお，三叉路を北へ進むと加賀田山に至ります）。

山頂からは南西に，堀障子などの館岸城の遺構を見ながら下ります。

館岸城の中心部分と思われる希望の広場を経てウラジロが生える落葉樹林の中を下り，西寺遺跡に至ると間もなく大久保集落に入り，コモチシダなども見られます。

耕作地の中の農道を南に行くと，体験学習館「分校」に戻ります。

この道の起点は，花園集落にすることも出来ます。

また，体験学習館「分校」から大久保集落を通って山頂に登り，水場を経て体験学習館「分校」に戻る道もあります（往路は約100分。復路は約80分）。

体験学習館「分校」から上記の道とは逆に山頂に登ります。下りは希望の広場を左に下って，水場（虎口）を通って分岐点で来た道と合流して下ります。

ここは南北朝時代に，北朝方の上杉氏が館岸城を造り，南朝方が立て籠もる難台山城との合戦（難台山合戦）が行われた場所とされています。

ヒノキ林に囲まれた館岸山頂

山頂へ最後の登り

8－3　鳥居松林道［加賀田山北麓の渓流沿いの道］

清らかな渓流

渓流沿いの道

本戸（笠間地区）と長沢（岩間地区）を結ぶ鳥居松林道の笠間地区を歩く道です。（往路約100分。復路は約60分）。

笠間クラインガルテン東の北関東自動車道下を発着地として，細い川沿いの林道を歩きます。駐車は林道入口の空地を利用できますが，お手洗いはありませんので笠間クラインガルテンなどで済ませて下さい。

スギやコナラ，アカシデなどの針葉樹と落葉広葉樹の混交林の中の道で，夏にはオオバギボウシ，秋にはキバナアキギリやツリフネソウ，ヤマジノホトトギスなどが愛でられます。

夏から秋にかけて，涼を求めながら草花を愛でるのに適した場所です。

緑のトンネルの中で

鳥居松林道入り口

明るい林道を歩く

渓流であそぶ

アキノタムラソウ
2014.09.20

ウバユリ
2018.07.21

オオバギボウシ
2012.07.21

オカスミレ
2005.04.05

オカトラノオ
2012.07.21

カラスノエンドウ
2007.05.19

カントウタンポポ
2005.04.05

キブシ
2004.04.05

準 指 **キンラン**
2012.05.10

コクラン
2014.07.01

サルナシ（実）
2014.09.20

指 **シュウブンソウ**
2014.09.20

ダイコンソウ
2012.07.21

ツリフネソウ
2014.09.20

ツルリンドウ（実）
2013.11.16

トウダイグサ
2005.04.05

ノリウツギ
2012.07.21

Ⅱ **ハイチゴザサ**
2014.09.20

ヒサカキ
2005.04.05

ヤマジノホトトギス
2014.09.20

タニヘゴ
2012.07.21

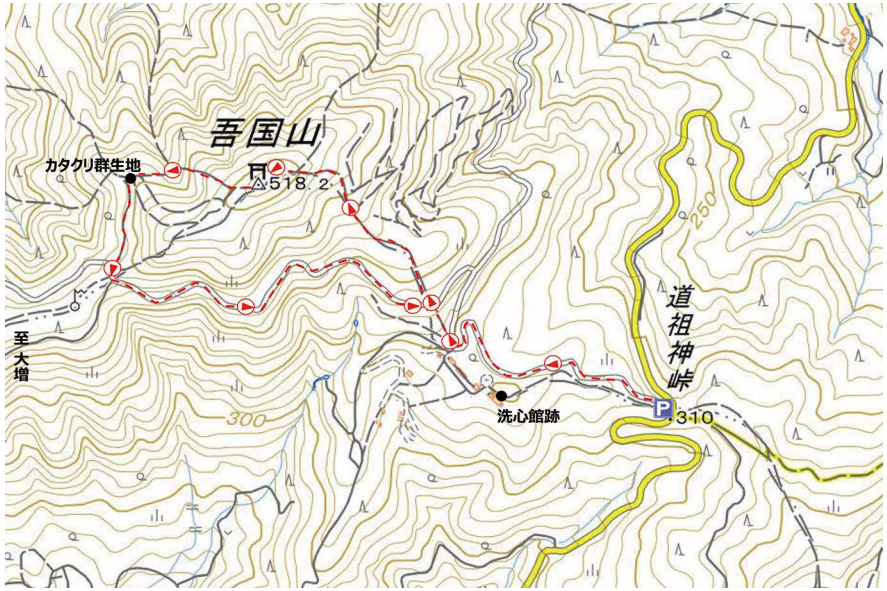
ナガホノナツノハナワラビ
2018.07.21

ヒカリモ
2012.07.21

タマゴタケ
2016.09.17

9. 吾国山［吾国山の尾根を歩く道］

福原から望む吾国山



吾国山の尾根を歩く道

道祖神峠を発着地として南東面を山頂（518㍍）まで上り，西面を回って道祖神峠に戻る道（1周約160分）で，「吾国愛宕県立自然公園」内を歩きます。

駐車場は道祖神峠の空地を利用します。お手洗いはありません。

道祖神峠から石岡市大増へ抜ける車道を洗心館跡を経て歩き，吾国山南東面からヒノキの植林地の中の急坂を直登しますが，滑りやすいので，下りに使う時は特に注意が必要です。尾根に出るとブナの林（笠間市の天然記念物）で，シデ類やオオモミジ，ヤマボウシ，コナラなども見られます。

山頂から南西へ下る小径沿は，春にはヤマツツジの他キンランやギンラン，ミヤマカタバミ，カタクリなどの可憐な花々が見られます。ここには笠間市の天然記念物「吾国山のカタクリ群生地」と「吾国山のブナ林」があります。この二つの天然記念物は地元の人々の保護活動のおかげです。

山頂部を下って石岡市大増からの道に出ると，ヤマザクラやアカシデ，コナラ，キブシなどの雑木林内の道で，秋にはキバナアキギリやセンブリなどを見ながら東に下ると洗心館跡を経て道祖神峠に着きます。

『吾国山』の名は「日本武尊がこの山に登り，霊地であると感嘆し『これは他国に非ず，実に吾が国なり』と言われたことから山名になった」という伝説があります。

天 市 ブナ林とカタクリの群落

吾国山頂の田上神社

ブナ林を歩く

指 **イヌショウマ**
2002.09.21

カタクリ
2010.04.11

準 指 **ギンラン**
2017.05.07

シキミ
2008.03.22

ジャコウソウ
2008.09.23

ジロボウエンゴサク
2003.04.16

センブリ
2006.10.26

センボンヤリ
2003.04.16

ツクバトリカブト
2008.09.23

ツクバネソウ
2017.05.07

指 **トウゴクサバノオ**
2008.04.16

ハダカホオズキ（実）
2010.11.13

天 市 ブナの林
2012.11.15

ホウチャクソウ
2015.05.04

ミツバツチグリ
2003.04.16

ムラサキケマン
2003.04.16

ヤブデマリ
2002.05.25

ユリワサビ
2009.03.28

リュウノウギク
2006.11.25

オウレンシダ
2008.10.28

ジュウモンジシダ
2017.05.07

ヒメノキシノブ
2009.03.28

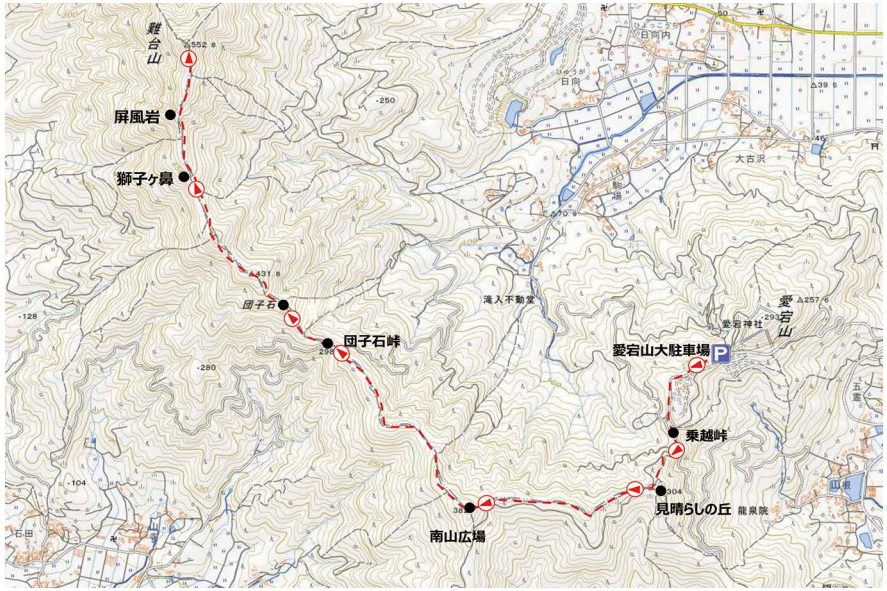
シジュウカラ
2012.04.07

ヤマアカガエル（卵のう）
2015.03.10

10. 難台山

10－1　難台山［愛宕山から難台山頂往復の道］

上郷から望む難台山



愛宕山から難台山往復の道

愛宕山大駐車場を発着地として見晴らしの丘，南山広場，団子石，獅子ヶ鼻，屏風岩を経て難台山頂（553㍍）を往復する道です（登り約200分，下り約120分）。

途中にお手洗いはありません。

現在は「吾国愛宕県立自然公園」に指定されていますが，戦前の軍隊の訓練道だそうで，上り下りの激しい道で，滑りやすい所も多いです。

乗越峠で右の山道を登ると，間もなく広場に着きます。そこから下ると団子石峠に至り，上郷駒場と石岡市瓦谷を結ぶ林道を横切ります。団子石はそのすぐ上です。

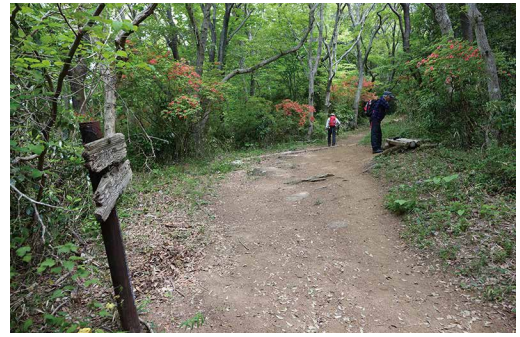
小さな頂きを幾つか超えて，晩秋にはヤマツツジやキンランなどを愛でて登ります。さらに，獅子ヶ鼻や屏風岩などを経て，急な上り坂を上がると難台山頂に着きます。

なお，愛宕山から南山広場までは往復約110分で，愛宕山から途中の団子石までは往復約180分です。

また，団子石から難台山頂までの往復は約140分です。

愛宕山大駐車場から難台山頂に登って，道祖神峠までの縦走は少なくとも4時間以上を要します。

山頂下の南面に県指定の史跡難台山城趾があります。ここは南北朝時代の南朝方小山若犬丸と小田五郎藤綱がたてこもった場であり，歴史の舞台にもなっています。



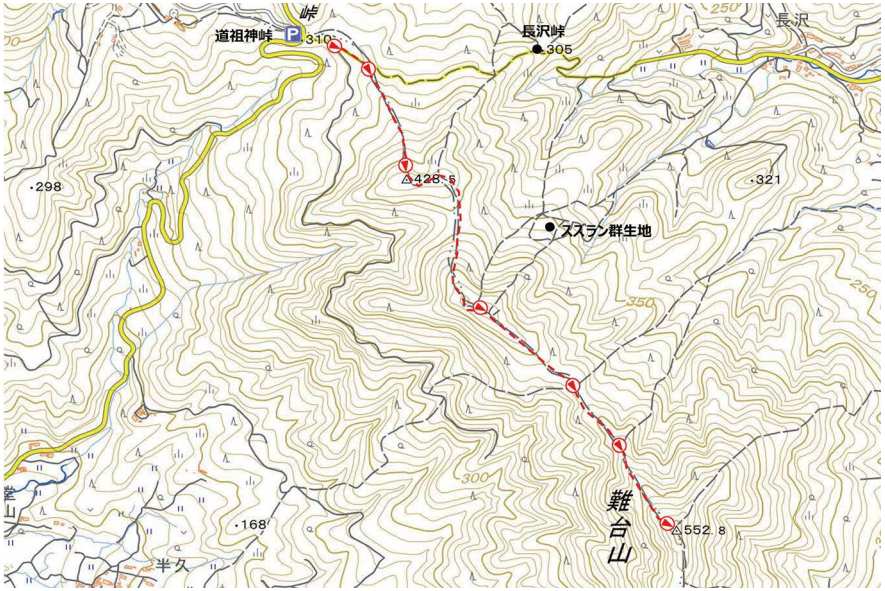
団子石からの登山道

団子石

初夏の難台山頂

10－2　難台山［道祖神峠から難台山頂往復の道］

吾国山から望む難台山



道祖神峠から難台山往復の道

道祖神峠を発着地として急な上り下りがある道で，ヒノキなどの植林地の中の広い山道を上り下りしながら歩く道です（往復約200分）。

きちんとした駐車場はありません。お手洗いも無いので，山麓の笠間クラインガルテンなどでお済ませ下さい。

道祖神峠（標高310㍍）から石岡市との境である起伏のある尾根道を歩きますが，小さな頂きを4つほど上り下りすると難台山頂に着きます。

難台山の山頂部はイヌシデやヤマザクラなどの落葉樹林に囲まれています。

春はエンレイソウやクサボケ，カタクリ，ヤマツツジ，秋にはノコンギクやツリフネソウなどが見られます。

道の全てが「吾国愛宕県立自然公園」内で，雨中や雨後は滑りやすいので注意が必要です。

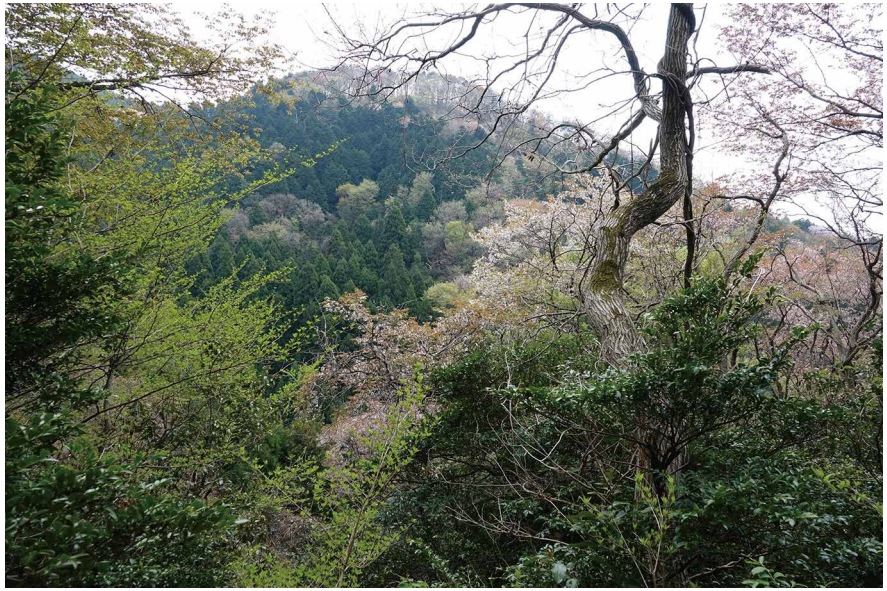
道祖神峠

初夏のハイキングコース

難台山頂の小祠

樹間からの難台山頂

10－3･4　難台山［道祖神峠から尾根の西側又は東側を歩く道］



初春の難台山林道　西側の道

難台山林道　西側の道・東側の道

10－3　難台山［道祖神峠から尾根の西側を歩く道］

道祖神峠を発着地として尾根の西側を南へ林道を歩く道です。

この林道は「吾国愛宕県立自然公園」内に作られた林道で，途中で行き止まりになっています。一番奥まで行くと往復約180分です。

駐車場及びお手洗いはありません。

スギ・ヒノキの植林及び落葉樹林の中のほぼ平坦な林道です。

所々で，吾国山などが見晴らせる場所もあります。

10－4　難台山［道祖神峠から尾根の東側を歩き尾根を戻る道］

道祖神峠から尾根の東側の林道を歩き，尾根に上がって道祖神峠に下る道で，「吾国愛宕県立自然公園」内を歩きます（1周約140分）。

駐車場もお手洗いもありません。

落葉樹林の中のやや平坦な林道を南東に進みます。

林の中で，小さな頂と長沢集落を結ぶ三叉路（長沢峠：標高305㍍）に着くと，そこから尾根まで急な道を上ります。

小さな頂（標高429㍍）に着くと，吾国愛宕県立自然公園ハイキングコースで，春にはエイザンスミレやナガバノスミレサイシン，ワニグチソウなど，晩秋にはミヤマシキミの美しい実が見られます。

そのまま，尾根道を道祖神峠へ下ります。

難台山林道　西側の道で

西側林道の標識

難台山林道東側の道　長沢峠にて

10－5　難台山［長沢集落からスズラン群生地を経る道］

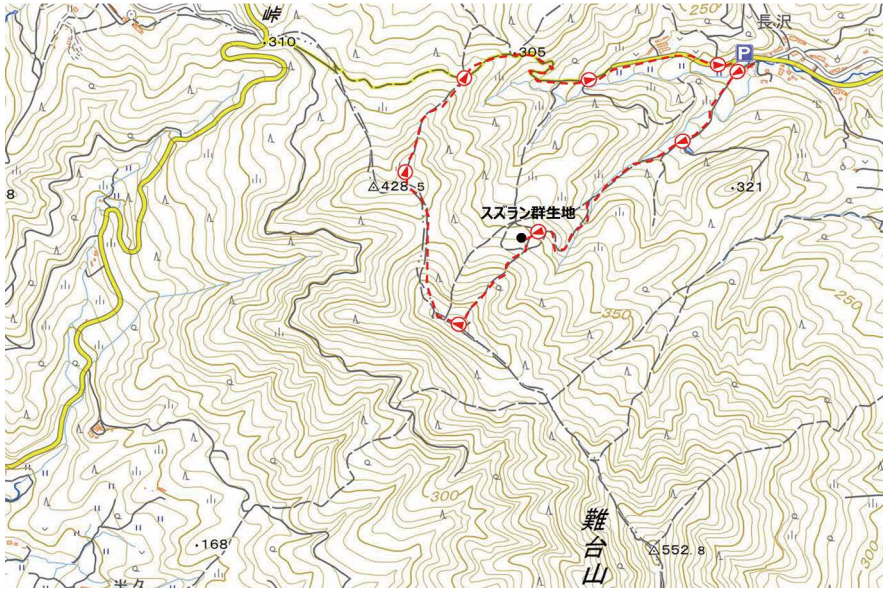
難台山麓北側の長沢を発着地として南西のスズラン群生地を経て尾根に上がり，途中から東へ下る道です（1周110分）。

駐車は舗装道の終点を利用できますが，お手洗いはありません。

長沢集落から緩やかに林の中の道を上ると「吾国愛宕県立自然公園」に入り，スズラン群生地（標高約360㍍）に至ります。

そこから西へ急登すると標高約420㍍の小さな頂に上がります。

そこは吾国愛宕県立自然公園ハイキングコースで，さらに北上して次の小さな頂（標高約429㍍）から東へ下ると，長沢に戻ります。



長沢集落からスズラン群生地をめぐる道

スズラン群生地

アカシデ
2002.04.02

アケボノスミレ
2019.04.19

アマドコロ
2015.05.04

エンレイソウ
2010.04.10

オクモミジハグマ
2002.09.21

オトコヨウゾメ
2017.05.07

カタクリ
2010.04.10

キッコウハグマ
2006.10.26

クサボケ
2008.04.15

準 指 スズラン
2012.05.17

タイアザミ
2008.10.28

Ⅱ タチフウロ
2004.09.16

ツクバキンモンソウ
2021.04.12

ツルカノコソウ
2019.04.19

トウゴクミツバツツジ
2017.05.07

トチバニンジン
2015.05.16

指 ナガバノスミレサイシン
2003.04.16

ノコンギク
2008.10.28

ノササゲ（実）
2005.12.08

フクオウソウ
2008.09.23

フモトスミレ
2002.04.02

マルバノホロシ（実）
2018.11.17

ミヤマキケマン
2003.05.03

ミヤマシキミ（実とつぼみ）
2018.11.17

ミヤマナルコユリ
2015.05.16

ヤブツバキ
2003.04.16

ヤマツツジ
2003.05.03

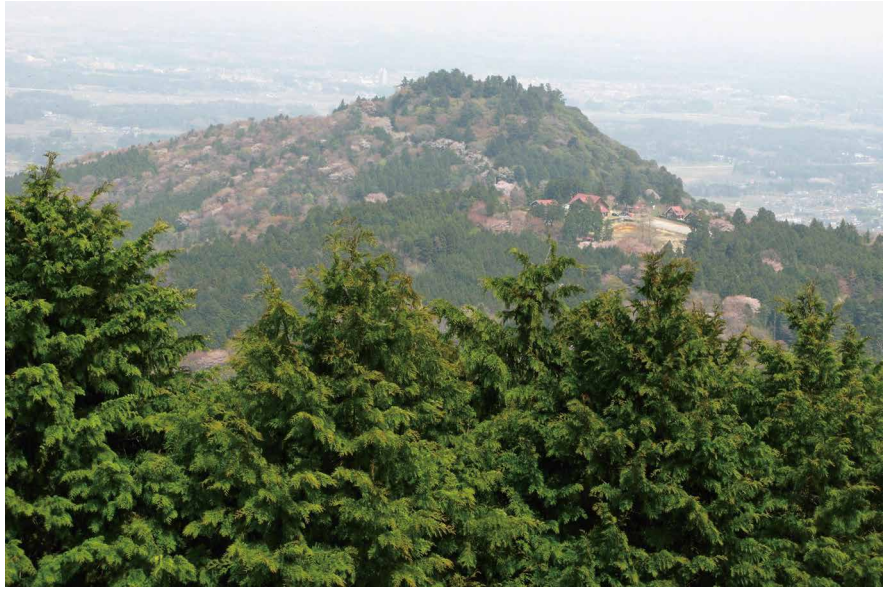
指 ワニグチソウ
2002.05.25

Ⅱ イワタケ
2015.11.22

キアゲハ
2002.09.21

11. 愛宕山

11ー1　愛宕山［南山広場までの道］



南山広場から望む愛宕山

南山広場までの道

愛宕山大駐車場を発着地として難台山へのハイキングコースを南山広場まで往復する道です（登り約100分。下り約60分）。

愛宕山（306㍍）は笠間市南部で，「吾国愛宕県立自然公園」の最南端に位置し，その山頂部から少し南へ向かい，ハイキングコースに従って南山広場まで登ります。

乗越峠から山道に入り，急な上りもありますが，ヌルデやネムノキ，アカシデ，ウワミズザクラ，オトコエシ，キンラン，ギンラン，ヤマユリ，ワレモコウ，ノハラアザミや木に絡んだキジョランなどを見ながら歩くと，疲れはあまり感じません。

広場下ではそのまま直登しても，右に巻いて石段を上っても大差はありませんので，往路と復路で変えると良いでしょう。

愛宕山の山頂部に日本三大火防の愛宕神社が鎮座し，境内にはホルンフェルスの岩脈が走っていて，最近パワースポットとされているようです。ここには「十三天狗」の伝説があり，それに関する「悪態まつり」という奇祭が行われています。

愛宕山大駐車場

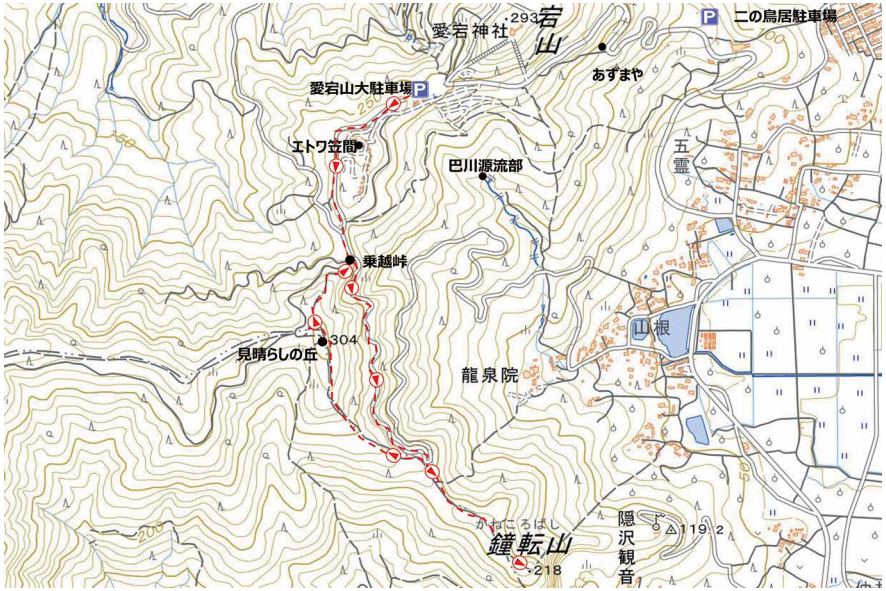
大駐車場から見た愛宕山頂

ホルンフェルスの岩脈

整備の行き届いているハイキングコース

11－2　愛宕山［愛宕山から鐘転山往復の道］

鐘転山直下の隠沢観音



愛宕山から鐘転山往復の道

愛宕山大駐車場を発着地として鐘転山（218㍍）まで「吾国愛宕県立自然公園」内を往復する道です（1周約170分）。

愛宕山大駐車場から泉へ向かう車道を南下します。道の両側の崖にはウリカエデやヒサカキ，キブシやマタタビに混じって，ウラジロの群落が見られます。

途中から鐘転山への山道に入りますが，シラカシやシデ類，カエデ類，ヤマザクラなどの中を歩き，約90分で鐘転山頂（218㍍）に着きます。

復路は泉からの車道を通らずに尾根道を歩き，見晴らしの丘を通って乗越峠に下りて，駐車場に戻ります。

植林地の中の急な坂の小径沿いにオオバチドメやカシワバハグマ，キッコウハグマ，オオバノトンボソウ，アキノタムラソウ，ゲンノショウコ，ノリウツギなどが見られ，約80分で愛宕山大駐車場に戻ります。

鐘転山への道標

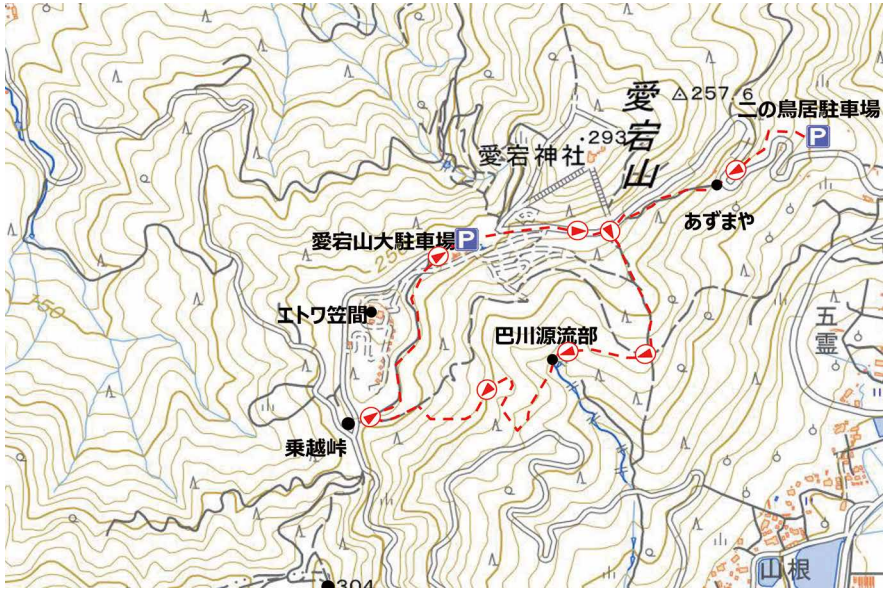
車道から鐘転山への道に入る

鐘転山頂

鐘転山頂にて

11－3　愛宕山［二の鳥居から愛宕山南面の道］

愛宕神社二の鳥居



二の鳥居から愛宕山南面の道

愛宕山中腹の二の鳥居駐車場を発着地として，愛宕山南面の遊歩道を歩いて巴川源流や乗越峠を周り，愛宕山大駐車場や愛宕神社を経て，林道を下って二の鳥居駐車場に戻る道です（1周約120分）。

ここには手洗いと駐車場があります。

この道は「吾国愛宕県立自然公園」の愛宕山南面で暖かく，二の鳥居周辺にはカワズザクラ（ヒガンザクラ）が数本植えられていて，早春は見事です。

スダジイやシラカシ，アカシデ，タブノキ，コナラ林の中の段々道を上ります。車道を渡った先の広くなった所に四阿があり，そこからスダジイの大木が多い暖帯林の中を上ると，愛宕神社の鳥居下に出ます。

車道を進むと遊歩道はすぐに左に下り，低木が植えられた芝地を経て，大駐車場からの滑り台の下に着きます。

そこから，ヒノキ林内の道でフユイチゴやリョウメンシダを眺めながら歩くと，歩道は間もなく巴川の源流を小さな橋で渡ります。ここは，キジョランやツルギキョウなどの貴重な植物が見られましたが，最近はイノシシに荒らされてツルギキョウは見られなくなっています。

漸登する道を上りつめた所が乗越峠の北端部で，駐車場もありますが，南側のヒノキ林内を通る舗装道を歩くと大駐車場に着き，素晴らしい眺めが楽しめます。

駐車場の東に鎮座する愛宕神社のタブ，スダジイの大木を見ながら舗道を下ると，間もなく二の鳥居に戻ります。

春にはアカネスミレやスミレ，タチツボスミレ，ニオイタチツボスミレ，エイザンスミレなどのスミレ類やウラシマソウなどを楽しめます。

列車利用の場合は岩間駅から二の鳥居までは約2㌔，徒歩では約30分です。

巴川源流の橋

旧道の鳥居

11－4　愛宕山［愛宕山半周の道］

愛宕神社

愛宕山半周の道

愛宕山大駐車場を発着地として，愛宕山の西側中腹を半周する道（約150分）ですが，一部道が判り辛いことと「吾国愛宕県立自然公園」内なので，初心者は案内者が必要です。

愛宕山大駐車場から北（西方向）へ，タイサンボクやゲッケイジュが植栽された軽舗装道を下ります。

軽舗装が終わる所の右手に四阿，左手に小さな関があって，その下の水溜まりには季節によっていろいろな昆虫が見られます。そこから来た道を100㍍弱戻ると，左へ山道が開けていて，スギ林やヒノキ林の中の道になります。

スギ林の林床では，フユイチゴやモミジイチゴ，キブシ，ヤブツバキなどが生え，ウラジロの群落も見られます。

駒場への分岐点を右（北東）方向に進むと，ウラジロの群落やマンリョウ，つる性のマタタビやキジョランが多く，晩秋にはアサギマダラの幼虫も見られます。

途中の民有地は道が分かり難くなるので，足跡を探しながら歩きますが，リョウメンシダやベニシダなどのシダ植物が多く見られます。

大網からの旧登山道の小さな広場に出ると，ヤマザクラやコナラ，クヌギの高木があり，夏の直射日光を避けられます。また，将棋盤が彫られた平らな石版もあります。

そこから南東へ回ると車道に出ますが，途中から南西へスギ林の中の小道を登ると，四阿のある小さな広場（休憩広場）に出て，間もなく愛宕神社に着きます。

本殿から西の愛宕山大駐車場への参道は，タブやスダジイ，スギ，モミなどの高木の生えた中にあり，大木にムササビの住む巣穴を見たりしながら下ると，駐車場に出ます。

林道は細々と続く

石の将棋盤がある広場

アオキ（実）
2010.03.13

アカネスミレ
2003.04.16

アキカラマツ
2004.09.16

イヌヤマハッカ
2005.09.29

ウラシマソウ
2007.04.28

指 **エイザンスミレ**
2010.04.11

準 指 **オオバチドメ**
2008.11.08

オミナエシ
2017.07.15

準 指 **キジョラン（実）**
2008.12.30

キバナアキギリ（白花）
2005.09.29

準 指 **ギンラン**
2015.05.04

クサイチゴ（実）
2014.05.30

クサギ（実）
2008.11.08

クロモジ
2004.03.31

ゲンノショウコ
2002.09.21

Ⅱ **コカモメヅル**
2019.09.14

コブシ
2002.04.02

サワフタギ（実）
2005.09.29

ジュウニヒトエ
2006.05.12

シロダモ
2008.11.08

天 市 **スダジイ**
2019.09.14

タカトウダイ
2005.09.29

ツクバネウツギ
2017.05.18

ニオイタチツボスミレ
2002.04.02

ヒイラギ
2008.11.08

指 マンリョウ（実）
2010.03.13

指 ミヤマウズラ
2002.09.21

メドハギ
2019.09.14

メナモミ
2005.09.29

ヤマザクラ
2007.04.05

指 ヤマユリ
2015.07.18

リョウブ
2017.07.15

指 ウラジロ（新芽）
2010.03.13

フモトシダ
2010.03.13

アサギマダラ
2008.10.20

アサギマダラ（幼虫）
2010.04.40

12. 野口池湿原［野口池湿原周辺を歩く道］

野口池湿原の核心部

野口池湿原周辺を歩く道

笠間市の南東部に位置し，標高約30㍍の平地にある低層湿原で，アカマツやコナラ，クヌギの二次林とスギ，ヒノキの植林地及び畑で囲まれていて，県の「自然環境保全地域」に指定されています。

湿原は幅は平均約45㍍，長さ約500㍍と東西に細長い形状です。

駐車場とお手洗いは笠間市岩間総合運動公園（笠間市岩間海洋センター）にあり，ここを発着地とします。

湿原内にはサワギキョウやミズオトギリ，クサレダマ，イトイヌノハナヒゲ，ヒナノカンザシ，ヒメナエ及び食虫植物のモウセンゴケ，ミミカキグサ，ホザキノミミカキグサ，ムラサキミミカキグサなど250種以上の維管束植物（シダ植物と種子植物）が記録されています。（湿原内は木道を歩いて下さい）

また，山地の湿原に生育する北方系のヤマドリゼンマイや暖地性のウラジロ，動物ではハッチョウトンボやオツネントンボなどの平地池沼性トンボと共に高地性のオゼイトトンボも記録されていますが，現在は見られなくなっています。

さらに，現在は湿地の乾燥化や，特定外来種のナガエモウセンゴケやセイタカアワダチソウなどの外来種の繁茂が心配されています。

湿原を出て，南へ林の中の道の草花などを見ながら県道43号に出て東へ，さらにすぐに北へ向かうと約100分で総合運動公園に戻ります。

また，湿原を出てそのまま北へ向かって林内を歩き，野口池の北端部を回ってくる道（1周約160分）もありますが，林内は道が不明瞭なので，経験者と同行して下さい。

カキツバタの群落

総合運動公園から
野口池湿原に向かう

アキノウナギツカミ
2016.10.07

イボクサ
2020.09.19

Ⅱ **カキツバタ**
2013.05.17

Ⅱ **カザグルマ**
2022.05.12

キツネノマゴ
2020.09.19

クサレダマ
2016.07.08

ゴンズイ（実）
2018.09.07

サワギキョウ
2018.09.07

サワヒヨドリ
2014.09.13

センニンソウ
2018.09.07

ナンバンギセル
2020.09.10

ニョイスミレ
2019.05.05

準 ノハナショウブ
2018.06.07

ヒメシロネ
2020.09.19

IA ホザキノミミカキグサ
2014.09.13

準 ミズオトギリ
2018.09.07

IB ミズトンボ
2013.09.12

IB ミミカキグサ
2012.07.19

IA ムラサキミミカキグサ
2019.08.21

IB モウセンゴケ
2012.07.25

準 ヤマラッキョウ
2014.10.26

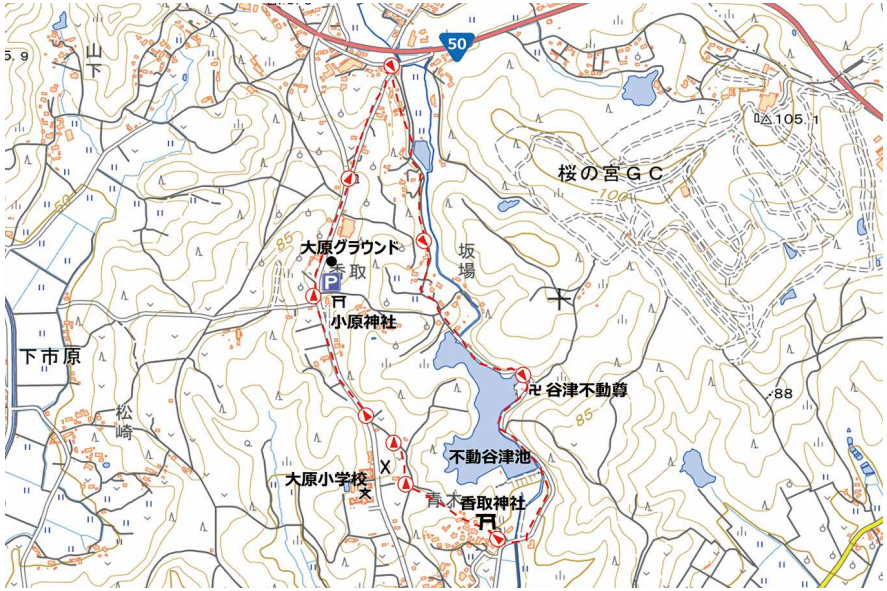
キツネノエフデ
2015.09.15

ヤマサナエ
2019.05.13

ミドリカミキリ
2014.05.17

13. 不動谷津池［大原グラウンドから不動谷津池など小原地区を歩く道］

不動谷津池



不動谷津池など小原地区を歩く道

小原地区の大原グラウンドを発着地として国道50号に出て，坂場集落，不動谷津池，青木集落を通って大原グラウンドに戻る道です（1周約160分）。

大原グラウンドから車道を国道50号まで北上し，集落内の水田の縁の小道を南下します。

坂場集落を抜けると不動谷津池の北端部に出て，池の東側を巻きながら雑木林の中の道を南下します。

不動谷津池の南端部には不動橋があり，それを渡ると対岸の生きものが観察できます。

橋を戻って南下すると青木集落に入りますが，集落の中にある香取神社に登ると，多数のサカキが生えています。

集落を西北に緩やかな坂道を上ると大原小学校に至ります。

その前の車道を北上すると右手に小原神社があり，ゲッケイジュなどが見られ，その北隣が大原グラウンドです。

大原グラウンド駐車場で

小原地区のたんぼ道で

山林に踏み込んで

不動谷津池畔で

イヌタデ
2005.10.04

ガマズミ（実）
2005.10.10

カントウヨメナ
2005.10.10

キンミズヒキ
2005.10.10

コブシ（実）
2005.10.10

サカキ
2005.10.10

サンショウ（実）
2005.10.04

トキリマメ（実）
2005.10.06

ノハラアザミ
2005.10.04

ヒヨドリバナ
2005.10.04

ヤマハギ
2005.10.06

フユノハナワラビ
2005.10.04

14. その他の観察地での記録

観察地以外で記録された「貴重な生きもの」の写真を下に示します。

Ⅱ **アマナ**
2020.03.12／涸沼川畔

準 **アリアケスミレ**
2003.04.17／住吉

Ⅱ **カキツバタ**
2012.05.19／随分附

天 **ケヤキ（樹齢700年）**
市 2015.04.22／小原神社

天 **スギ（樹齢250年）**
市 2014.06.23／羽梨山神社

準 **ノアズキ**
2005.08.21／矢野下

天 **フジ（八重咲）**
県 2015.04.30／笠間稲荷神社

Ⅱ **ヒメハッカ**
2005.09.28／随分附

天 **ムクノキ（樹囲5.9m）**
市 2015.05.02／山根池畔

Ⅱ **アマサギ**
2012.06.03／八反山

準 **ハッチョウトンボ**
2015.06.12／福田

準 **ハラビロトンボ**
2015.06.12／福田

第三章　笠間市の貴重な生きもの

表1. に笠間市内で確認された貴重な動植物の種名を記します。

これは「笠間市で記録された動植物リスト」（巻末）から「貴重な種」として抜粋したもので，茨城県の絶滅危惧種のほか県立自然公園の指定植物，市・県・国指定の天然記念物などをまとめて表にしてあります。

1. 貴重な生きものの指定区分と略号

Ⅰ 絶滅危惧Ⅰ類　絶滅の危機に瀕している種。現在の状態をもたらした圧迫要因が続く場合，野生での存続が困難なもの。

ⅠA 絶滅危惧ⅠA類　ごく近い将来に野生での絶滅の危険性が極めて高いもの。

ⅠB 絶滅危惧ⅠB類　絶滅危惧ⅠA類程ではないが，近い将来における野生での絶滅の危険性が高いもの。

Ⅱ 絶滅危惧Ⅱ類　現在の状態をもたらした圧迫要因が引き続き作用する場合，近い将来「ⅠB」のランクが確実と考えられる種。

準 準絶滅危惧　現時点での絶滅危険度は小さいが，生育条件の変化によっては上位ランクに移行する要素を有するもの。

情 情報不足1注目種　評価するだけの情報が不足している種

指 指定植物　茨城県立自然公園条例に基づいて，採取などを禁止すべき種として知事が指定した植物。

天 天然記念物　動物，植物，地質･鉱物などの自然物に関する記念物で，市･県･国別に，文化財保護法・条例で指定されたもの。

2. 貴重な生きものの保護地

1）県立自然公園

県条例により，県を代表する優れた風景地として知事が承認する自然公園で，土地の開墾，土地の形状変更，樹木の伐採，植物の採取などが規制される。

●笠間県立自然公園……国見山から仏頂山，高峯，富谷山まで。佐白山，北山公園，岩谷寺が含まれる。

●吾国愛宕県立自然公園……吾国山から難台山，愛宕山，鐘転山まで。加賀田山，館岸山，鳥居松林道が含まれる。

2）環境保全地域

茨城県自然環境保全条例に基づき，自然環境を保全することが特に必要な地域として知事が指定し，風致景観に大きな影響を及ぼす行為を規制している。

●野口池自然環境保全地域［押辺］……植物自生地・野生動物生息地・学術価値のある人工林等が良好な自然状態を保持している地域。

●稲田緑地環境保全地域［稲田］……樹林地が市街地・集落と一体となって良好な自然環境を形成している土地。

表 1．笠間市の貴重な生きもの一覧

No.	種　　名	科　　名	絶滅危惧種	天然記念物	県立自然公園指定		その他保全地
			茨城県指定	国県市指定	笠間	吾国愛宕	
	【 種子植物 】						
1	アギナシ	オモダカ科	絶滅危惧Ⅱ類				
2	アキノハハコグサ	キク科	絶滅危惧Ⅱ類				
3	アズマイチゲ	キンポウゲ科	準絶滅危惧				
4	アマナ	ユリ科	絶滅危惧Ⅱ類				
5	アヤメ	アヤメ科	絶滅危惧Ⅱ類				
6	アリアケスミレ	スミレ科	準絶滅危惧				
7	イカリソウ	メギ科			指定植物		
8	イズセンリョウ	サクラソウ科	準絶滅危惧		指定植物	指定植物	
9	イソノキ	クロウメモドキ科	絶滅危惧Ⅱ類				野口池
10	イチリンソウ	キンポウゲ科	準絶滅危惧				
11	イトイヌノハナヒゲ	カヤツリグサ科	準絶滅危惧				野口池
12	イトイヌノヒゲ	ホシクサ科	絶滅危惧ⅠB類				
13	イヌショウマ	キンポウゲ科			指定植物	指定植物	
14	イヌマキ（根幹囲3.2m）	マキ科		市天然記念物			南友部
15	イロハモミジ（樹齢300年）	ムクロジ科		市天然記念物			笠間本戸
16	イワタバコ	イワタバコ科				指定植物	
17	ウスギムヨウラン	ラン科	絶滅危惧ⅠB類		指定植物		
18	ウチワドコロ	ヤマノイモ科	準絶滅危惧				
19	ウメバチソウ	ニシキギ科	絶滅危惧Ⅱ類		指定植物	指定植物	
20	エイザンスミレ	スミレ科				指定植物	
21	エゾリンドウ	リンドウ科					野口池
22	エビネ	ラン科	絶滅危惧Ⅱ類			指定植物	
23	エンレイソウ	シュロソウ科				指定植物	
24	オオイヌノハナヒゲ	カヤツリグサ科	絶滅危惧Ⅱ類				
25	オオニガナ	キク科	準絶滅危惧				天神の里
26	オオバウマノスズクサ	ウマノスズクサ科	絶滅危惧Ⅱ類				
27	オオバチドメ	ウコギ科	準絶滅危惧		指定植物	指定植物	
28	オオヒキヨモギ	ハマウツボ科	絶滅危惧Ⅱ類				
29	オキナグサ	キンポウゲ科	絶滅危惧ⅠA類		指定植物		
30	お葉つきイチョウ 樹齢300年	イチョウ科		県天然記念物			西念寺
31	オミナエシ	スイカズラ科	絶滅危惧Ⅱ類				
32	カキツバタ	アヤメ科	絶滅危惧Ⅱ類				野口池
33	カキラン	ラン科	絶滅危惧Ⅱ類		指定植物	指定植物	
34	カゴノキ	クスノキ科	準絶滅危惧				
35	カザグルマ	キンポウゲ科	絶滅危惧Ⅱ類				野口池
36	カタクリ（吾国山）	ユリ科		市天然記念物		指定植物	吾国山
37	カモノハシ	イネ科	準絶滅危惧				
38	カヤラン	ラン科	準絶滅危惧		指定植物	指定植物	
39	カラコギカエデ	ムクロジ科	絶滅危惧ⅠB類				
40	カワラナデシコ	ナデシコ科	準絶滅危惧				
41	カワラハハコ	キク科	絶滅危惧Ⅱ類				
42	キキョウ	キキョウ科	絶滅危惧Ⅱ類		指定植物	指定植物	野口池
43	キクザキイチゲ	キンポウゲ科	準絶滅危惧			指定植物	
44	キクタニギク	キク科	準絶滅危惧				
45	キジョラン	キョウチクトウ科	準絶滅危惧		指定植物	指定植物	
46	キセルアザミ	キク科					野口池
47	キヨスミウツボ	ハマウツボ科				指定植物	
48	ギンバイソウ	アジサイ科	絶滅危惧ⅠA類				
49	キンラン	ラン科	準絶滅危惧		指定植物	指定植物	

No.	種　　名	科　　名	絶滅危惧種	天然記念物	県立自然公園指定		その他保全地
			茨城県指定	国県市指定	笠間	吾国愛宕	
50	ギンラン	ラン科	準絶滅危惧			指定植物	
51	クサレダマ	サクラソウ科					野口池
52	クチナシグサ	ハマウツボ科	絶滅危惧Ⅱ類				
53	クマガイソウ	ラン科	絶滅危惧ⅠA類		指定植物	指定植物	
54	クモキリソウ	ラン科			指定植物	指定植物	
55	クモラン	ラン科	絶滅危惧ⅠB類		指定植物		
56	クロガネモチ	モチノキ科	準絶滅危惧				
57	クロホシクサ	ホシクサ科	絶滅危惧ⅠB類				
58	ケヤキ（樹齢700年）	ニレ科		市天然記念物			小原神社
59	コオニユリ	ユリ科	準絶滅危惧				
60	コカモメヅル	キョウチクトウ科	絶滅危惧Ⅱ類				
61	コガンピ	ジンチョウゲ科	絶滅危惧ⅠB類		指定植物	指定植物	
62	コクラン	ラン科			指定植物		
63	コフウロウ	フウロウソウ科				指定植物	
64	コミヤマスミレ	スミレ科			指定植物		
65	サイハイラン	ラン科			指定植物	指定植物	天神の里
66	サギソウ	ラン科	絶滅危惧ⅠA類		指定植物		野口池
67	サネカズラ	マツブサ科			指定植物		
68	サルスベリ（根幹囲2.65m）	ミソハギ科		市天然記念物			南友部
69	サワオグルマ	キク科	絶滅危惧Ⅱ類				天神の里
70	サワギキョウ	キキョウ科			指定植物		野口池
71	サワシロギク	キク科	準絶滅危惧		指定植物		野口池
72	ジガバチソウ	ラン科	準絶滅危惧		指定植物	指定植物	
73	シダレザクラ（樹齢250年）	バラ科		市天然記念物			八坂神社
74	シャクジョウソウ	ツツジ科	絶滅危惧Ⅱ類		指定植物		
75	シュウブンソウ	キク科			指定植物	指定植物	
76	シュンラン	ラン科			指定植物	指定植物	天神の里
77	ジンバイソウ	ラン科	準絶滅危惧			指定植物	
78	スギ（樹齢250年）	スギ科		市天然記念物			羽梨山神社
79	スズラン	クサスギカズラ科	絶滅危惧Ⅱ類			指定植物	
80	スダジイ（幹囲5.6m）	ブナ科		市天然記念物			愛宕神社
81	セッコク	ラン科	絶滅危惧Ⅱ類				
82	ゼンテイカ	ワスレグサ科	準絶滅危惧				
83	ダイモンジソウ	ユキノシタ科				指定植物	
84	タカクマヒキオコシ	シソ科	準絶滅危惧		指定植物		北山公園
85	タコノアシ	ユキノシタ科	準絶滅危惧				天神の里
86	タシロラン	ラン科	情報不足1				佐白山
87	タチフウロ	フウロソウ科	絶滅危惧Ⅱ類				
88	タムラソウ	キク科	準絶滅危惧			指定植物	天神の里
89	タンキリマメ	マメ科	絶滅危惧Ⅱ類				
90	ツクバネガシ（樹齢700年）	ブナ科	準絶滅危惧	市天然記念物			天神社
91	ツルギキョウ	キキョウ科	絶滅危惧Ⅱ類		指定植物		
92	トウゴクサバノオ	キンポウゲ科			指定植物	指定植物	
93	トウゴクヘラオモダカ	オマダカ科	絶滅危惧Ⅱ類				
94	ナガハシスミレ	スミレ科	絶滅危惧ⅠB類		指定植物		
95	ナガバノウナギツカミ	タデ科	絶滅危惧Ⅱ類				
96	ナガバノスミレサイシン	スミレ科				指定植物	
97	ニッポンイヌノヒゲ	ホシクサ科	準絶滅危惧				
98	ヌマゼリ	セリ科	絶滅危惧Ⅱ類				
99	ノアズキ	マメ科	準絶滅危惧				
100	ノジトラノオ	サクラソウ科	絶滅危惧ⅠB類				野口池
101	ノハナショウブ	アヤメ科	準絶滅危惧				野口池

No.	種　　名	科　　名	絶滅危惧種	天然記念物	県立自然公園指定		その他保全地
			茨城県指定	国県市指定	笠間	吾国愛宕	
102	ハイチゴザサ	イネ科	絶滅危惧Ⅱ類		指定植物		
103	ハシバミ	カバノキ科	絶滅危惧Ⅱ類				
104	ハタザオ	アブラナ科	絶滅危惧Ⅱ類				
105	ヒゲシバ	イネ科	準絶滅危惧				
106	ヒタチクマガイソウ	ラン科	絶滅危惧ⅠA類		指定植物		
107	ヒツジグサ	スイレン科	絶滅危惧ⅠB類				
108	ヒトツボクロ	ラン科	準絶滅危惧		指定植物	指定植物	
109	ヒナノシャクジョウ	ヒナノシャクジョウ科	情報不足		指定植物		
110	ヒメコヌカグサ	イネ科	準絶滅危惧				
111	ヒメナエ	マチン科	絶滅危惧ⅠB類				
112	ヒメナミキ	シソ科	準絶滅危惧				
113	ヒメハッカ	シソ科	絶滅危惧Ⅱ類				野口池
114	ヒメミクリ	ミクリ科	絶滅危惧ⅠB類				
115	フジ（八重咲き）	マメ科		県天然記念物			笠間稲荷
116	フジキ	マメ科	準絶滅危惧				
117	フシグロセンノウ	ナデシコ科	準絶滅危惧				
118	フジバカマ	キク科	絶滅危惧Ⅱ類		指定植物		
119	ブナ（吾国山）	ブナ科		市天然記念物		指定植物	吾国山
120	ベニカヤラン	ラン科			指定植物		
121	ホザキノミミカキグサ	タヌキモ科	絶滅危惧ⅠA類		指定植物		野口池
122	ホシクサ	ホシクサ科	絶滅危惧ⅠB類				
123	ホツツジ	ツツジ科	準絶滅危惧				
124	マツムシソウ	スイカズラ科	絶滅危惧ⅠA類			指定植物	
125	マルバダケブキ	キク科	絶滅危惧Ⅱ類				
126	マルバヌスビトハギ	マメ科	準絶滅危惧				
127	マルバノイチヤクソウ	ツツジ科				指定植物	天神の里
128	マンリョウ	サクラソウ科			指定植物	指定植物	
129	ミクリ	ミクリ科	準絶滅危惧				
130	ミズオトギリ	オトギリソウ科	準絶滅危惧				
131	ミズトンボ	ラン科	絶滅危惧ⅠB類				野口池
132	ミミカキグサ	タヌキモ科	絶滅危惧ⅠB類				野口池
133	ミヤマウズラ	ラン科			指定植物	指定植物	
134	ミヤマトベラ	マメ科	絶滅危惧ⅠA類		指定植物		
135	ムカゴネコノメ	ユキノシタ科	準絶滅危惧			指定植物	
136	ムクノキ（幹囲5.9m）	アサ科		市天然記念物			山根池
137	ムサシアブミ	サトイモ科	絶滅危惧ⅠB類				
138	ムツオレグサ	イネ科	準絶滅危惧				
139	ムヨウラン	ラン科	準絶滅危惧				北山公園
140	ムラサキミミカキグサ	タヌキモ科	絶滅危惧ⅠA類				野口池
141	モウセンゴケ	モウセンゴケ科	絶滅危惧ⅠB類		指定植物		野口池
142	モチノキ（根幹囲3.3m）	モチノキ科		市天然記念物			友部鴻巣
143	ヤマユリ	ユリ科			指定植物	指定植物	
144	ヤマラッキョウ	ヒガンバナ科	準絶滅危惧				天神の里
145	ユウシュンラン	ラン科	絶滅危惧Ⅱ類		指定植物	指定植物	
146	ヨウラクラン	ラン科	準絶滅危惧		指定植物		
147	リュウキンカ	キンポウゲ科	絶滅種		指定植物		
148	リンドウ	リンドウ科			指定植物	指定植物	
149	リンボク	バラ科	絶滅危惧Ⅱ類				
150	レンゲツツジ	ツツジ科	準絶滅危惧		指定植物		
151	ワニグチソウ	クサスギカズラ科				指定植物	

No.	種　　名	科　　名	絶滅危惧種	天然記念物	県立自然公園指定		その他保全地
			茨城県指定	国県市指定	笠間	吾国愛宕	
	【 シダ植物 】						
1	イノデモドキ	オシダ科	準絶滅危惧				
2	イワヘゴ	オシダ科	絶滅危惧Ⅱ類				
3	ウラジロ	ウラジロ科			指定植物	指定植物	
4	オオカナワラビ	オシダ科	絶滅危惧Ⅱ類				
5	オオキジノオ	キジノオシダ科	準絶滅危惧				
6	オオクジャクシダ	オシダ科	絶滅危惧Ⅱ類				
7	カタヒバ	イワヒバ科	準絶滅危惧			指定植物	
8	キジノオシダ	キジノオシダ科			指定植物		
9	クモノスシダ	チャセンシダ科	準絶滅危惧			指定植物	
10	クリハラン	ウラボシ科	絶滅危惧ⅠB類			指定植物	
11	コシダ	ウラジロ科			指定植物		
12	コタニワタリ	チャセンシダ科	準絶滅危惧				
13	コバノイシカグマ	コバノイシカグマ科	準絶滅危惧				
14	コヒロハハナヤスリ	ハナヤスリ科	絶滅危惧Ⅱ類		指定植物		
15	サイゴクベニシダ	オシダ科	絶滅危惧ⅠB類				
16	ナガバノイタチシダ	オシダ科	絶滅危惧ⅠB類				
17	ヒトツバ	ウラボシ科	絶滅危惧ⅠA類				
18	ミズニラ	ミズニラ科	準絶滅危惧				
19	ヤマドリゼンマイ	ゼンマイ科					野口池
	【 コケ・藻類 】						
1	オオミズゴケ	ミズゴケ科	準絶滅危惧				野口池
2	キヨスミイトゴケ	ハイヒモゴケ科	準絶滅危惧				
	【 地衣類 】						
1	イワタケ	イワタケ科	準絶滅危惧				
2	キンブチゴケ	カブトゴケ科	絶滅危惧Ⅰ類				
3	ヒメイワタケ	イワタケ科	絶滅危惧Ⅱ類				
	【 菌　類 】						
1	クロカワ	マツバハリタケ科	絶滅危惧Ⅱ類				
	【 哺乳類 】						
1	ニッコウムササビ	リス科	準絶滅危惧				
2	ニホンリス	リス科	準絶滅危惧				
	【 鳥類 】						
1	アマサギ	サギ科	絶滅危惧Ⅱ類				
2	オオタカ	タカ科	準絶滅危惧				
3	オシドリ	カモ科	準絶滅危惧				
4	カイツブリ	カイツブリ科	準絶滅危惧				
5	カッコウ	カッコウ科	絶滅危惧ⅠB類				
6	コシアカツバメ	ツバメ科	絶滅危惧Ⅱ類				
7	サシバ	ワシタカ科	絶滅危惧Ⅱ類				
8	ハヤブサ	ハヤブサ科	絶滅危惧Ⅱ類				
9	ヤマセミ	カワセミ科	絶滅危惧ⅠB類				
10	ヨシゴイ	サギ科	絶滅危惧Ⅱ類				
11	ヨタカ	ヨタカ科	情報不足				
	【 は虫類 】						
1	シロマダラ	ナミヘビ科	準絶滅危惧				
	【 両性類 】						
1	カジカガエル	アオガエル科	準絶滅危惧				
2	トウキョウサンショウウオ※	サンショウウオ科	準絶滅危惧				天神の里
	【 魚類 】						
1	ギバチ	ギギ科	絶滅危惧Ⅱ類				
2	キンブナ	コイ科	準絶滅危惧				

No.	種　　名	科　　名	絶滅危惧種	天然記念物	県立自然公園指定		その他保全地
			茨城県指定	国県市指定	笠間	吾国愛宕	
3	シマドジョウ	ドジョウ科	準絶滅危惧				
4	スナヤツメ北方種	ヤツメウナギ科	絶滅危惧Ⅱ類				
5	ホトケドジョウ	ドジョウ科	絶滅危惧Ⅱ類				
6	メダカ	メダカ科	準絶滅危惧				天神の里
7	ヤマメ無斑型	サケ科	絶滅危惧ⅠA類				
8	ヤリタナゴ	コイ科	絶滅危惧Ⅱ類				
	【 節足動物・昆虫類】						
1	アオハダトンボ	カワトンボ科	準絶滅危惧				
2	オゼイトトンボ	イトトンボ科	準絶滅危惧				
3	オツネントンボ	アオイトトンボ科	絶滅危惧Ⅱ類				
4	キイトトンボ	イトトンボ科	準絶滅危惧				
5	サラサヤンマ	ヤンマ科	準絶滅危惧				
6	ナゴヤサナエ	サナエトンボ科	準絶滅危惧				
7	ハッチョウトンボ	トンボ科	準絶滅危惧				福田
8	ハラビロトンボ	トンボ科	準絶滅危惧				
9	ミヤマアカネ	トンボ科	準絶滅危惧				
10	ムカシトンボ	ムカシトンボ科	準絶滅危惧				
11	ヒョウモンモドキ	タテハチョウ科	絶滅種				
12	オオムラサキ	タテハチョウ科	絶滅危惧Ⅱ類	国蝶			天神の里
13	ツマグロキチョウ	シロチョウ科	絶滅危惧ⅠB類				
14	ゲンジボタル	ホタル科	準絶滅危惧				天神の里
15	コオイムシ	コオイムシ科	絶滅危惧Ⅱ類				
16	タガメ	コオイムシ科	準絶滅危惧				
17	トゲアリ	アリ科	絶滅危惧Ⅱ類				
18	ヒメハルゼミ	セミ科	準絶滅危惧	国天然記念物			楞厳寺他
19	ミズスマシ	ゲンゴロウ科	絶滅危惧ⅠB類				
20	ヤマトタマムシ	タマムシ科	準絶滅危惧				
	【 節足動物・クモ類他 】						
1	コガネグモ	コガネグモ科	準絶滅危惧				
2	ヌカエビ	ヌマエビ科	準絶滅危惧				
	【 軟体動物 】						
1	イシガイ	イシガイ科	準絶滅危惧				
2	カラスガイ	イシガイ科	絶滅危惧ⅠA類				
3	マルタニシ	タニシ科	準絶滅危惧				
4	ムシオイガイ	ムシオイガイ科	絶滅危惧Ⅱ類				
5	モノアラガイ	モノアラガイ科	絶滅危惧Ⅱ類				
6	ヤマキサゴ	ヤマキサゴ科	準絶滅危惧				
7	ヤマタニシ	ヤマタニシ科	準絶滅危惧				

笠間市が基準標本産地になっている生きもの

No.	種　　名	科　　名
1	ナンダイミヤコグサ	イネ科
2	ヒタチクマガイソウ	ラン科
3	カサマコバンダニ	ナガコバンダニ科
4	カサママガリアシダニ	オヨギダニ科
5	カサマヒラタダニ	ヒラタダニ科
6	ヒヌマセトトビケラ	ヒゲナガトビケラ科
7	ヒヌマヒラタダニ	ヒラタダニ科
8	ヒヌママガリアシダニ	オヨギダニ科

第四章　笠間市の特定外来生物

笠間市内で確認されている特定外来種にはアライグマ，ウシガエル，カワヒバリガイ，ソウシチョウ，アレチウリ，オオカワヂシャ，オオキンケイギク，オオフサモ，ナガエモウセンゴケなどがあります。

笠間市内では，2010年からオオキンケイギクの抜取作戦を毎年実施しています。また, 2019年から急増してきているアライグマの捕獲に力を入れています。

表2. に笠間市および茨城県で確認された特定外来生物の状況を示します。

アライグマ

ウシガエル

ソウシチョウ

アレチウリ

オオキンケイギク

オオフサモ

表2.　笠間市および茨城県の特定外来生物

2021.11現在

種類	種　　名	茨城県の状況	笠間市の状況
植物 全国 19種類 茨城 10種類	オオキンケイギク	笠間市他6市で防除を実施（2021年）	2010年から抜取り作戦実施中 1回/年
	アレチウリ		2015年　主な河川敷で生育確認 監視中
	ミズヒマワリ	利根川水系，霞ヶ浦などに定着　防除中	
	オオカワヂシャ		2014年　枝折川で生育確認　監視中
	オオフサモ	利根川水系，霞ヶ浦などに定着　防除中	2007年　西池で生育確認　監視中
	アゾラ・クリスタータ	和名アメリカオオアカウキクサ	
	オオハンゴンソウ		
	ナガエツルノゲイトウ	利根川水系，霞ヶ浦などに定着　防除中	
	ナガエモウセンゴケ	小美玉市八幡池・笠間市野口池確認	2012・2014年野口池で抜き取り実施
	オオバナミズキンバイ	霞ヶ浦で定着　2017年から駆除実施	
哺乳類 全国 25種類	アライグマ	2017年度524頭～2019年度1119頭捕獲数急増中	2019年度8頭 捕獲　急増中
	クリハラリス	菅生沼周辺に定着　2013年 51頭捕獲	
	※マスクラット	江戸川，利根川水系で定着が懸念される	
鳥類 全国7種	ソウシチョウ	筑波山に定着・県央・県北の山でも確認	北山公園ほか市内各地の山で鳴声がする
	ガビチョウ	山間部に急速に分布拡大	
爬虫類 全国21種	※カミツキガメ	河川等で発見　県内定着が懸念される	
両生類 全国15種	ウシガエル	各地の湖沼・河川で繁殖拡大	市内各地の池沼に定着　大声で鳴いている 2018年　天神池（南友部）幼生の捕獲駆除
魚類 全国 26種類 茨城 7種類	オオクチバス ブルーギル	釣り目的に導入　在来魚群や様々な動物群集に対する深刻な影響を懸念	市内各地の池沼や河川に定着していると推定される
	アメリカナマズ	有害魚除去事業として漁協に捕獲依頼	（正式名チャネルキャットフィッシュ）
	コクチバス	那珂川，鬼怒川，小貝川で生息確認	
	オオタナゴ		
	コウライギギ		
	カダヤシ		
昆虫 全国25種	アカボシゴマダラ	翅に赤い斑紋のあるチョウ　繁殖力旺盛	2016年　新規指定　市内各地で確認
	クビアカツヤカミキリ	サクラやモモの木を食害するカミキリムシ 2018年　新規指定	
	※アカカミアリ	猛毒注意！2017年コンテナで発見	
軟体動物 全国5種	カワヒバリガイ	2005年　霞ヶ浦で生息確認　2012年には霞ヶ浦湖岸の約80％に分布	不動谷津池に定着との情報あり 未確認
クモ類他 全国13種	セアカゴケグモ	猛毒注意！2013年1月　神栖市で生息確認	2021年　旭町地内で確認

出典：茨城県　外来生物について，環境省　日本の外来種対策

■2020年11月現在，全国的には，156種類が特定外来生物に指定されており，そのうち，茨城県に侵入・定着が確認されたものは合計26種類である。また，今後県内定着が懸念されるものが，※マスクラット，※カミツキガメ，※アカカミアリの3種である。

■朱記表示のものは，笠間市で確認されているもの（推定も含む）である。（合計13種類）

第五章　笠間市で記録された動植物

巻末に示す「笠間市で記録された動植物リスト」は過去20年間（2002年から）笠間市内で確認された動植物の種名を記したものです。これは，2004年から始まった自然観察会での調査を基に，増渕昇氏らによる野口池湿原及びビオトープ天神の里での定期観察結果，さらに，有志から提供されたデータ・写真や文献を加味して作成したものです。（コケ植物及び陸産貝類は，茨城県自然博物館の鵜沢美穂子氏・池澤広美氏の協力を得ました）。

収録されている種数は植物1200種，菌類91種，動物323種で合計1614種です。

表3.　笠間市で確認された植物・動物の種数

植　　物				菌　　類		動　　物							
種子植物	シダ植物	コケ植物	藻類	地衣類	菌類	哺乳類	鳥類	は虫類	両生類	魚類	昆虫類	クモ類	軟体類
979	104	113	4	70	21	8	64	9	10	14	181	10	27

第六章　笠間市の自然や生きものに関する文献・書籍

・友部町の植生と植物　友部町教育委員会　昭和63(1988)年
・いわまの自然　岩間町教育委員会　昭和63(1988)年
・友部町史　友部町　平成２(1990)年
・笠間の自然　笠間市教育委員会　平成４(1992)年
・友部町自然環境調査報告書　友部町教育委員会　平成５(1993)年
・友部の自然　友部町教育委員会　平成７(1995)年
・笠間市史　地誌編　笠間市　平成16(2004)年
・新笠間市の歴史　Ⅰ自然と環境　笠間市教育委員会　平成23(2011)年
・おもしろ理科先生　いばらき自然散歩　吉武和治郎　結ブックス　2014年
・茨城県における絶滅のおそれのある野生生物 植物編 2012年改訂版
・茨城県における絶滅のおそれのある野生生物 動物編 2016年改訂版
・茨城における絶滅のおそれのある野生生物 蘚苔類･藻類･地衣類･菌類編 2020年版
・県立自然公園特別地域における指定植物（1982年　告示第1442号）
・市指定文化財一覧（笠間市公式ホームページ）
・特定外来生物防除マニアル　－笠間　2020－ かさま環境を考える会
・茨城県自然公園等配置図
・笠間市の貝類種について　堤徳郎　茨城の生物30号　2010年

・記録写真提供者

打越　修　　小沼　知恵子　　小菅　次男　　中島　功
増渕　昇　　吉武　和治郎

かさま環境を考える会会員

伊藤　アキノ　　打越　修　　小沼　知恵子　　菊地　寿代
岸　倫男　　木村　敏之　　小林　恵四郎　　高橋　済
出久根　治子　　原田　敏子　　細田　義人　　増渕　昇
山口　保男　　山野辺　浩平　　吉武　和治郎

笠間市で記録された動植物リスト

【 種子植物 】

No.	種　　名	LAPG科名
1	アイバソウ	カヤツリグサ科
2	アオイスミレ	スミレ科
3	アオカモジグサ	イネ科
4	アオカラムシ	イラクサ科
5	アオキ	アオキ科
6	アオスゲ	カヤツリグサ科
7	アオダモ	モクセイ科
8	アオツヅラフジ	ツヅラフジ科
9	アオハダ	モチノキ科
10	アオマムシグサ	サトイモ科
11	アオミズ	イラクサ科
12	アカガシ	ブナ科
13	アカザ	ヒユ科
14	アカシデ	カバノキ科
15	アカショウマ	ユキノシタ科
16	アカソ	イラクサ科
17	アカネ	アカネ科
18	アカネスミレ	スミレ科
19	アカバナ	アカバナ科
20	アカバナユウゲショウ	アカバナ科
21	アカマツ	マツ科
22	アカメガシワ	トウダイグサ科
23	アキカラマツ	キンポウゲ科
24	アギスミレ	スミレ科
25	アギナシ	オモダカ科
26	アキノウナギツカミ	タデ科
27	アキノエノコログサ	イネ科
28	アキノキリンソウ	キク科
29	アキノタムラソウ	シソ科
30	アキノノゲシ	キク科
31	アキノハハコグサ	キク科
32	アケビ	アケビ科
33	アケボノスミレ	スミレ科
34	アサダ	カバノキ科
35	アシ	イネ科
36	アジサイ	アジサイ科
37	アシボソ	イネ科
38	アスナロ	ヒノキ科
39	アズマイチゲ	キンポウゲ科
40	アズマネザサ	イネ科
41	アズマヤマアザミ	キク科
42	アゼガヤツリ	カヤツリグサ科
43	アゼスゲ	カヤツリグサ科
44	アゼトウガラシ	アゼナ科
45	アゼナ	アゼナ科
46	アセビ	ツツジ科
47	アブラガヤ	カヤツリグサ科
48	アブラススキ	イネ科
49	アブラチャン	クスノキ科
50	アマチャヅル	ウリ科
51	アマドコロ	クサスギカズラ科

【 種子植物 】

No.	種　　名	LAPG科名
52	アマナ	ユリ科
53	アメリカイヌホオズキ	ナス科
54	アメリカオニアザミ	キク科
55	アメリカキンゴジカ	アオイ科
56	アメリカスミレサイシン	スミレ科
57	アメリカセンダングサ	キク科
58	アメリカタカサブロウ	キク科
59	アメリカフウロ	フウロソウ科
60	アヤメ	アヤメ科
61	アラカシ	ブナ科
62	アリアケスミレ	スミレ科
63	アリノトウグサ	アリノトウグサ科
64	アレチウリ	ウリ科
65	アレチヌスビトハギ	マメ科
66	アワブキ	アワブキ科
67	イ	イグサ科
68	イカリソウ	メギ科
69	イシミカワ	タデ科
70	イズセンリョウ	サクラソウ科
71	イソノキ	クロウメモドキ科
72	イタチハギ	マメ科
73	イタドリ	タデ科
74	イタビカズラ	クワ科
75	イタヤカエデ	ムクロジ科
76	イチゴツナギ	イネ科
77	イチヤクソウ	ツツジ科
78	イチョウ	イチョウ科
79	イチリンソウ	キンポウゲ科
80	イトイヌノハナヒゲ	カヤツリグサ科
81	イトイヌノヒゲ	ホシクサ科
82	イトヒバ	ヒノキ科
83	イヌエンジュ	マメ科
84	イヌガヤ	イチイ科
85	イヌガラシ	アブラナ科
86	イヌキクイモ	キク科
87	イヌコウジュ	シソ科
88	イヌゴマ	シソ科
89	イヌザクラ	バラ科
90	イヌザンショウ	ミカン科
91	イヌシデ	カバノキ科
92	イヌショウマ	キンポウゲ科
93	イヌタデ	タデ科
94	イヌツゲ	モチノキ科
95	イヌトウバナ	シソ科
96	イヌナズナ	アブラナ科
97	イヌノハナヒゲ	カヤツリグサ科
98	イヌノヒゲ	ホシクサ科
99	イヌビエ	イネ科
100	イヌビユ	ヒユ科
101	イヌブナ	ブナ科
102	イヌホオズキ	ナス科

【 種子植物 】

No.	種　　名	LAPG科名
103	イヌホタルイ	カヤツリグサ科
104	イヌマキ	マキ科
105	イヌヤマハッカ	シソ科
106	イノコズチ	ヒユ科
107	イボクサ	ツユクサ科
108	イボタノキ	モクセイ科
109	イモカタバミ	カタバミ科
110	イロハモミジ	ムクロジ科
111	イワガラミ	アジサイ科
112	イワタバコ	イワタバコ科
113	ウキクサ	サトイモ科
114	ウグイスカグラ	スイカズラ科
115	ウコギ	ウコギ科
116	ウシコロシ（カマツカ）	バラ科
117	ウシハコベ	ナデシコ科
118	ウスギムヨウラン	ラン科
119	ウスゲタマブキ	キク科
120	ウスノキ	ツツジ科
121	ウスベニチチコグサ	キク科
122	ウチワドコロ	ヤマノイモ科
123	ウツギ	アジサイ科
124	ウツボグサ	シソ科
125	ウド	ウコギ科
126	ウバユリ	ユリ科
127	ウマゴヤシ	マメ科
128	ウマノアシガタ	キンポウゲ科
129	ウマノスズクサ	ウマノスズクサ科
130	ウマノミツバ	セリ科
131	ウメガサソウ	ツツジ科
132	ウメバチソウ	ニシキギ科
133	ウメモドキ	モチノキ科
134	ウラシマソウ	サトイモ科
135	ウラジロガシ	ブナ科
136	ウラジロチチコグサ	キク科
137	ウラジロノキ	バラ科
138	ウリカエデ	ムクロジ科
139	ウリカワ	オモダカ科
140	ウリクサ	アゼナ科
141	ウリノキ	ミズキ科
142	ウリハダカエデ	ムクロジ科
143	ウワバミソウ	イラクサ科
144	ウワミズザクラ	バラ科
145	エイザンスミレ	スミレ科
146	エゴノキ	エゴノキ科
147	エゾノギシギシ	タデ科
148	エゾミソハギ	ミソハギ科
149	エゾリンドウ	リンドウ科
150	エノキ	アサ科
151	エノキグサ	トウダイグサ科
152	エノコログサ	イネ科
153	エビヅル	ブドウ科
154	エビネ	ラン科
155	エンコウカエデ	ムクロジ科

【 種子植物 】

No.	種　　名	LAPG科名
156	エンジュ	マメ科
157	エンレイソウ	シュロソウ科
158	オオアブラススキ	イネ科
159	オオアラセイトウ（ハナダイコン）	アブラナ科
160	オオアレチノギク	キク科
161	オオイタドリ	タデ科
162	オオイヌタデ	タデ科
163	オオイヌノハナヒゲ	カヤツリグサ科
164	オオイヌノフグリ	オオバコ科
165	オオオナモミ	キク科
166	オオカワジシャ	オオバコ科
167	オオキンケイギク	キク科
168	オオジシバリ	キク科
169	オオシマザクラ	バラ科
170	オオナルコユリ	クサスギカズラ科
171	オオニガナ	キク科
172	オオニシキソウ	トウダイグサ科
173	オオニワゼキショウ	アヤメ科
174	オオバアサガラ	エゴノキ科
175	オオバウマノスズクサ	ウマノスズクサ科
176	オオバギボウシ	クサスギカズラ科
177	オオバコ	オオバコ科
178	オオバジャノヒゲ	クサスギカズラ科
179	オオバショウマ	キンポウゲ科
180	オオバタネツケバナ	アブラナ科
181	オオバチドメ	ウコギ科
182	オオバナコマツヨイグサ	アカバナ科
183	オオバノトンボソウ	ラン科
184	オオバヤシャブシ	カバノキ科
185	オオハンゲ	サトイモ科
186	オオヒキヨモギ	ハマウツボ科
187	オオヒナノウスツボ	ゴマノハグサ科
188	オオフサモ	アリノトウグサ科
189	オオブタクサ	キク科
190	オオベニタデ	タデ科
191	オオマツヨイグサ	アカバナ科
192	オオモミジ	ムクロジ科
193	オカスミレ	スミレ科
194	オカタツナミソウ	シソ科
195	オカトラノオ	サクラソウ科
196	オカメザサ	イネ科
197	オギ	イネ科
198	オキナグサ	キンポウゲ科
199	オクモミジハグマ	キク科
200	オグルマ	キク科
201	オケラ	キク科
202	オッタチカタバミ	カタバミ科
203	オトギリソウ	オトギリソウ科
204	オトコエシ	スイカズラ科
205	オトコヨウゾメ	ガマズミ科
206	オトコヨモギ	キク科
207	オトメスミレ	スミレ科
208	オドリコソウ	シソ科

【 種子植物 】

No.	種　　名	LAPG科名
209	オナモミ	キク科
210	オニイタヤ	ムクロジ科
211	オニグルミ	クルミ科
212	オニスゲ	カヤツリグサ科
213	オニタビラコ	キク科
214	オニドコロ	ヤマノイモ科
215	オニノゲシ	キク科
216	オハツキイチョウ	イチョウ科
217	オヒシバ	イネ科
218	オヘビイチゴ	バラ科
219	オミナエシ	スイカズラ科
220	オモダカ	オモダカ科
221	オモト	クサスギカズラ科
222	オヤブジラミ	セリ科
223	オランダガラシ	アブラナ科
224	オランダミミナグサ	ナデシコ科
225	カエデドコロ	ヤマノイモ科
226	ガガイモ	キョウチクトウ科
227	カキツバタ	アヤメ科
228	カキドオシ	シソ科
229	カキラン	ラン科
230	ガクアジサイ	アジサイ科
231	カクレミノ	ウコギ科
232	カゴノキ	クスノキ科
233	カザグルマ	キンポウゲ科
234	カサスゲ	カヤツリグサ科
235	カジイチゴ	バラ科
236	カシワ	ブナ科
237	カシワバアジサイ	アジサイ科
238	カシワバハグマ	キク科
239	カスマグサ	マメ科
240	カスミザクラ	バラ科
241	カゼクサ	イネ科
242	カタクリ	ユリ科
243	カタバミ	カタバミ科
244	カツラ	カツラ科
245	カテンソウ	イラクサ科
246	カナビキソウ	ビャクダン科
247	カナムグラ	アサ科
248	カナメモチ	バラ科
249	カニツリグサ	イネ科
250	ガマ	ガマ科
251	ガマズミ	ガマズミ科
252	カマツカ	バラ科
253	カメバヒキオコシ	シソ科
254	カモガヤ	イネ科
255	カモジグサ	イネ科
256	カモノハシ	イネ科
257	カヤ	イチイ科
258	カヤツリグサ	カヤツリグサ科
259	カヤラン	ラン科
260	カラコギカエデ	ムクロジ科
261	カラシナ	アブラナ科

【 種子植物 】

No.	種　　名	LAPG科名
262	カラスウリ	ウリ科
263	カラスザンショウ	ミカン科
264	カラスノエンドウ	マメ科
265	カラスノゴマ	アオイ科
266	カラスビシャク	サトイモ科
267	カラスムギ	イネ科
268	カラタチバナ	サクラソウ科
269	カラムシ	イラクサ科
270	カリン	バラ科
271	カワラケツメイ	マメ科
272	カワラスゲ	カヤツリグサ科
273	カワラナデシコ	ナデシコ科
274	カワラハハコ	キク科
275	ガンクビソウ	キク科
276	カンスゲ	カヤツリグサ科
277	カントウタンポポ	キク科
278	カントウヨメナ	キク科
279	キイチゴ(モミジイチゴ)	バラ科
280	キウイフルーツ	マタタビ科
281	キカラスウリ	ウリ科
282	キキョウ	キキョウ科
283	キキョウソウ	キキョウ科
284	キクイモ	キク科
285	キクザキイチゲ	キンポウゲ科
286	キクタニギク	キク科
287	キクモ	オオバコ科
288	ギシギシ	タデ科
289	キジムシロ	バラ科
290	キシュウスズメノヒエ	イネ科
291	キショウブ	アヤメ科
292	キジョラン	キョウチクトウ科
293	キセルアザミ	キク科
294	キチジョウソウ	クサスギカズラ科
295	キッコウハグマ	キク科
296	キヅタ	ウコギ科
297	キツネアザミ	キク科
298	キツネノカミソリ	ヒガンバナ科
299	キツネノボタン	キンポウゲ科
300	キツネノマゴ	キツネノマゴ科
301	キハギ	マメ科
302	キハダ	ミカン科
303	キバナアキギリ	シソ科
304	キバナノマツバニンジン	アマ科
305	キブシ	キブシ科
306	キュウリグサ	ムラサキ科
307	キヨスミウツボ	ハマウツボ科
308	キランソウ	シソ科
309	キリ	キリ科
310	キリンソウ	ベンケイソウ科
311	キンエノコロ	イネ科
312	ギンバイソウ	アジサイ科
313	キンミズヒキ	バラ科
314	キンラン	ラン科

【 種子植物 】

No.	種　　名	LAPG科名
315	ギンラン	ラン科
316	ギンリョウソウ	ツツジ科
317	クコ	ナス科
318	クサイ	イグサ科
319	クサイチゴ	バラ科
320	クサギ	シソ科
321	クサコアカソ	イラクサ科
322	クサノオウ	ケシ科
323	クサボケ	バラ科
324	クサヨシ	イネ科
325	クサレダマ	サクラソウ科
326	クズ	マメ科
327	クスノキ	クスノキ科
328	クチナシ	アカネ科
329	クチナシグサ	ハマウツボ科
330	クヌギ	ブナ科
331	クマイチゴ	バラ科
332	クマガイソウ	ラン科
333	クマザサ	イネ科
334	クマシデ	カバノキ科
335	クマノミズキ	ミズキ科
336	クマヤナギ	クロウメモドキ科
337	クモキリソウ	ラン科
338	クモラン	ラン科
339	クリ	ブナ科
340	クロガネモチ	モチノキ科
341	クロホシクサ	ホシクサ科
342	クロモジ	クスノキ科
343	クロヤナギ	ヤナギ科
344	クワクサ	クワ科
345	グンバイナズナ	アブラナ科
346	ケキツネノボタン	キンポウゲ科
347	ゲッケイジュ	クスノキ科
348	ケヤキ	ニレ科
349	ケヤブハギ	マメ科
350	ゲンゲ	マメ科
351	ゲンノショウコ	フウロソウ科
352	ケンポナシ	クロウメモドキ科
353	コアカザ	ヒユ科
354	コアカソ	イラクサ科
355	コアジサイ	アジサイ科
356	コアゼガヤツリ	カヤツリグサ科
357	コウガイゼキショウ	イグサ科
358	ゴウシュウアリタソウ	ヒユ科
359	コウゾ	クワ科
360	ゴウソ	カヤツリグサ科
361	コウゾリナ	キク科
362	コウヤボウキ	キク科
363	コウヤマキ	コウヤマキ科
364	コオニタビラコ	キク科
365	コオニユリ	ユリ科
366	コガマ	ガマ科
367	コカモメヅル	キョウチクトウ科

【 種子植物 】

No.	種　　名	LAPG科名
368	コカンスゲ	カヤツリグサ科
369	コガンピ	ジンチョウゲ科
370	コクサギ	ミカン科
371	コクラン	ラン科
372	コケオトギリ	オトギリソウ科
373	コゴメウツギ	バラ科
374	コゴメガヤツリ	カヤツリグサ科
375	コシアブラ	ウコギ科
376	コシオガマ	ハマウツボ科
377	コスミレ	スミレ科
378	コセンダングサ	キク科
379	コナギ	ミズアオイ科
380	コナスビ	サクラソウ科
381	コナラ	ブナ科
382	コニシキソウ	トウダイグサ科
383	コノテガシワ	ヒノキ科
384	コハウチワカエデ	ムクロジ科
385	コバギボウシ	クサスギカズラ科
386	コバノガマズミ	ガマズミ科
387	コバンソウ	イネ科
388	コヒルガオ	ヒルガオ科
389	コフウロウ	フウロウソウ科
390	コブシ	モクレン科
391	コブナグサ	イネ科
392	コボタンヅル	キンポウゲ科
393	コマツナギ	マメ科
394	コマユミ	ニシキギ科
395	コミゾソバ	タデ科
396	コミヤマスミレ	スミレ科
397	コムラサキ	シソ科
398	コメツブウマゴヤシ	マメ科
399	コメツブツメクサ	マメ科
400	コモチマンネングサ	ベンケイソウ科
401	コヤブタバコ	キク科
402	コヤブラン	クサスギカズラ科
403	ゴヨウマツ	マツ科
404	ゴンズイ	ミツバウツギ科
405	サイハイラン	ラン科
406	サカキ	モッコク科
407	サギゴケ	サギゴケ科
408	サギソウ	ラン科
409	サクラタデ	タデ科
410	ザクロソウ	ザクロソウ科
411	ササガヤ	イネ科
412	ササクサ	イネ科
413	ササバギンラン	ラン科
414	サザンカ	ツバキ科
415	サジガンクビソウ	キク科
416	サトザクラ	バラ科
417	サネカズラ	マツブサ科
418	サラシナショウマ	キンポウゲ科
419	サルスベリ	ミソハギ科
420	サルトリイバラ	サルトリイバラ科

【 種子植物 】

No.	種　　名	LAPG科名
421	サルナシ	マタタビ科
422	サワオグルマ	キク科
423	サワギキョウ	キキョウ科
424	サワシロギク	キク科
425	サワヒヨドリ	キク科
426	サワフタギ	ハイノキ科
427	サワラ	ヒノキ科
428	サンカクイ	カヤツリグサ科
429	サンカクヅル	ブドウ科
430	サンシュユ	ミズキ科
431	サンショウ	ミカン科
432	シオデ	サルトリイバラ科
433	シオン	キク科
434	ジガバチソウ	ラン科
435	シキミ	マツブサ科
436	ジシバリ	キク科
437	シソクサ	オオバコ科
438	シナダレスズメガヤ	イネ科
439	シバ	イネ科
440	シマスズメノヒエ	イネ科
441	シモツケ	バラ科
442	シャガ	アヤメ科
443	シャクジョウソウ	ツツジ科
444	ジャケツイバラ	マメ科
445	ジャコウソウ	シソ科
446	ジャノヒゲ	クサスギカズラ科
447	シュウカイドウ	シュウカイドウ科
448	ジュウニヒトエ	シソ科
449	シュウブンソウ	キク科
450	ジュズダマ	イネ科
451	シュロ	ヤシ科
452	シュンラン	ラン科
453	ショウジョウバカマ	シュロソウ科
454	ショウブ	ショウブ科
455	シラカシ	ブナ科
456	シラキ	トウダイグサ科
457	シラヤマギク	キク科
458	シロダモ	クスノキ科
459	シロツメクサ	マメ科
460	シロノセンダングサ	キク科
461	シロバナタンポポ	キク科
462	シロバナニガナ	キク科
463	ジロボウエンゴサク	ケシ科
464	シロヨメナ	キク科
465	ジンバイソウ	ラン科
466	シンミズヒキ	タデ科
467	スイカズラ	スイカズラ科
468	スイバ	タデ科
469	スカシタゴボウ	アブラナ科
470	スギ	ヒノキ科
471	ススキ	イネ科
472	スズタケ	イネ科
473	スズメウリ	ウリ科

【 種子植物 】

No.	種　　名	LAPG科名
474	スズメノエンドウ	マメ科
475	スズメノカタビラ	イネ科
476	スズメノチャヒキ	イネ科
477	スズメノテッポウ	イネ科
478	スズメノトウガラシ	アゼナ科
479	スズメノヒエ	イネ科
480	スズメノヤリ	イグサ科
481	スズラン	クサスギカズラ科
482	スダジイ	ブナ科
483	スベリヒユ	スベリヒユ科
484	ズミ	バラ科
485	スミレ	スミレ科
486	セイタカアワダチソウ	キク科
487	セイヨウタンポポ	キク科
488	セキショウ	ショウブ科
489	セッコク	ラン科
490	ゼニアオイ	アオイ科
491	ゼニバアオイ	アオイ科
492	セリ	セリ科
493	セリバヤマブキソウ	ケシ科
494	センダン	センダン科
495	センダングサ	キク科
496	ゼンテイカ	ワスレグサ科
497	セントウソウ	セリ科
498	センニンソウ	キンポウゲ科
499	センブリ	リンドウ科
500	センボンヤリ	キク科
501	センリョウ	センリョウ科
502	ソクズ	ガマズミ科
503	ソメイヨシノ	バラ科
504	ソヨゴ	モチノキ科
505	タイアザミ	キク科
506	ダイコンソウ	バラ科
507	タイサンボク	モクレン科
508	ダイモンジソウ	ユキノシタ科
509	タウコギ	キク科
510	タカアザミ	キク科
511	タカクマヒキオコシ	シソ科
512	タカサブロウ	キク科
513	タカトウダイ	トウダイグサ科
514	タガネソウ	カヤツリグサ科
515	タカノツメ	ウコギ科
516	タガラシ	キンポウゲ科
517	タケニグサ	ケシ科
518	タコノアシ	ユキノシタ科
519	タシロラン	ラン科
520	タチイヌノフグリ	オオバコ科
521	タチシオデ	サルトリイバラ科
522	タチチチコグサ	キク科
523	タチツボスミレ	スミレ科
524	タチドコロ	ヤマノイモ科
525	タチフウロ	フウロソウ科
526	タツナミソウ	シソ科

【 種子植物 】

No.	種　　名	LAPG科名
527	タニソバ	タデ科
528	タヌキマメ	マメ科
529	タネツケバナ	アブラナ科
530	タビラコ	キク科
531	タブノキ	クスノキ科
532	タマアジサイ	アジサイ科
533	タマガヤツリ	カヤツリグサ科
534	タマブキ	キク科
535	タムラソウ	キク科
536	タラノキ	ウコギ科
537	ダルマギク	キク科
538	タンキリマメ	マメ科
539	ダンコウバイ	クスノキ科
540	ダンドボロギク	キク科
541	チガヤ	イネ科
542	チカラシバ	イネ科
543	チゴザサ	イネ科
544	チゴユリ	イヌサフラン科
545	チダケサシ	ユキノシタ科
546	チチコグサ	キク科
547	チチコグサモドキ	キク科
548	チヂミザサ	イネ科
549	チドメグサ	ウコギ科
550	チドリノキ	ムクロジ科
551	チャノキ	ツバキ科
552	チョウジタデ	アカバナ科
553	ツクバキンモンソウ	シソ科
554	ツクバトリカブト	キンポウゲ科
555	ツクバネウツギ	スイカズラ科
556	ツクバネガシ	ブナ科
557	ツクバネソウ	シュロソウ科
558	ツタ	ブドウ科
559	ツタウルシ	ウルシ科
560	ツチアケビ	ラン科
561	ツノハシバミ	カバノキ科
562	ツボミオオバコ	オオバコ科
563	ツユクサ	ツユクサ科
564	ツリガネニンジン	キキョウ科
565	ツリバナ	ニシキギ科
566	ツリフネソウ	ツリフネソウ科
567	ツルアリドオシ	アカネ科
568	ツルウメモドキ	ニシキギ科
569	ツルカノコソウ	スイカズラ科
570	ツルギキョウ	キキョウ科
571	ツルグミ	グミ科
572	ツルナ	ハマミズナ科
573	ツルニガクサ	シソ科
574	ツルニンジン	キキョウ科
575	ツルフジバカマ	マメ科
576	ツルボ	クサスギカズラ科
577	ツルマサキ	ニシキギ科
578	ツルマメ	マメ科
579	ツルマンネングサ	ベンケイソウ科

【 種子植物 】

No.	種　　名	LAPG科名
580	ツルリンドウ	リンドウ科
581	テイカカズラ	キョウチクトウ科
582	テリハノイバラ	バラ科
583	ドイツスズラン	クサスギカズラ科
584	トウゴクサバノオ	キンポウゲ科
585	トウゴクヘラオモダカ	オモダカ科
586	トウゴクミツバツツジ	ツツジ科
587	トウダイグサ	トウダイグサ科
588	ドウダンツツジ	ツツジ科
589	トウネズミモチ	モクセイ科
590	トウバナ	シソ科
591	トキホコリ	イラクサ科
592	トキリマメ	マメ科
593	トキワハゼ	サギゴケ科
594	ドクダミ	ドクダミ科
595	トダシバ	イネ科
596	トチノキ	ムクロジ科
597	トチバニンジン	ウコギ科
598	トリアシショウマ	ユキノシタ科
599	ナガエモウセンゴケ	モウセンゴケ科
600	ナガバギシギシ	タデ科
601	ナガハシスミレ	スミレ科
602	ナガバジャノヒゲ	クサスギカズラ科
603	ナガバノウナギツカミ	タデ科
604	ナガバノコウヤボウキ	キク科
605	ナガバノスミレサイシン	スミレ科
606	ナガバノモウセンゴケ	モウセンゴケ科
607	ナギナタガヤ	イネ科
608	ナギナタコウジュ	シソ科
609	ナキリスゲ	カヤツリグサ科
610	ナズナ	アブラナ科
611	ナツグミ	グミ科
612	ナツハゼ	ツツジ科
613	ナルコユリ	クサスギカズラ科
614	ナワシロイチゴ	バラ科
615	ナンテン	メギ科
616	ナンバンギセル	ハマウツボ科
617	ニオイタチツボスミレ	スミレ科
618	ニガイチゴ	バラ科
619	ニガキ	ニガキ科
620	ニガクサ	シソ科
621	ニガナ	キク科
622	ニシキウツギ	スイカズラ科
623	ニシキギ	ニシキギ科
624	ニセジュズネノキ	アカネ科
625	ニッケイ	クスノキ科
626	ニッポンイヌノヒゲ	ホシクサ科
627	ニョイスミレ（ツボスミレ）	スミレ科
628	ニラ	ヒガンバナ科
629	ニリンソウ	キンポウゲ科
630	ニワウルシ	ニガキ科
631	ニワゼキショウ	アヤメ科
632	ニワトコ	ガマズミ科

【 種子植物 】

No.	種　　名	LAPG科名
633	ヌカキビ	イネ科
634	ヌスビトハギ	マメ科
635	ヌマガヤ	イネ科
636	ヌマゼリ	セリ科
637	ヌマトラノオ	サクラソウ科
638	ヌメリグサ	イネ科
639	ヌルデ	ウルシ科
640	ネコノメソウ	ユキノシタ科
641	ネコハギ	マメ科
642	ネコヤナギ	ヤナギ科
643	ネジキ	ツツジ科
644	ネジバナ	ラン科
645	ネズミムギ	イネ科
646	ネズミモチ	モクセイ科
647	ネナシカズラ	ヒルガオ科
648	ネムノキ	マメ科
649	ノアザミ	キク科
650	ノアズキ	マメ科
651	ノイバラ	バラ科
652	ノガリヤス	イネ科
653	ノカンゾウ	ワスレグサ科
654	ノゲイトウ	ヒユ科
655	ノゲシ	キク科
656	ノコンギク	キク科
657	ノササゲ	マメ科
658	ノジトラノオ	サクラソウ科
659	ノチドメ	ウコギ科
660	ノハナショウブ	アヤメ科
661	ノハラアザミ	キク科
662	ノビル	ヒガンバナ科
663	ノブキ	キク科
664	ノブドウ	ブドウ科
665	ノボロギク	キク科
666	ノミノツヅリ	ナデシコ科
667	ノミノフスマ	ナデシコ科
668	ノリウツギ	アジサイ科
669	バイカツツジ	ツツジ科
670	ハイチゴザサ	イネ科
671	ハイメドハギ	マメ科
672	ハエドクソウ	ハエドクソウ科
673	ハキダメギク	キク科
674	ハクウンボク	エゴノキ科
675	ハグロソウ	キツネノマゴ科
676	ハコベ	ナデシコ科
677	ハシカグサ	アカネ科
678	ハシバミ	カバノキ科
679	ハス	ハス科
680	ハダカホオズキ	ナス科
681	ハタザオ	アブラナ科
682	ハッカ	シソ科
683	バッコヤナギ	ヤナギ科
684	ハナイカダ	ハナイカダ科
685	ハナイバナ	ムラサキ科

【 種子植物 】

No.	種　　名	LAPG科名
686	ハナウド	セリ科
687	ハナショウブ	アヤメ科
688	ハナタデ	タデ科
689	ハナニガナ	キク科
690	ハハコグサ	キク科
691	ハリエンジュ	マメ科
692	ハリギリ	ウコギ科
693	ハルガヤ	イネ科
694	ハルジオン	キク科
695	ハルタデ	タデ科
696	ハンゴンソウ	キク科
697	ハンショウヅル	キンポウゲ科
698	ハンノキ	カバノキ科
699	ヒイラギ	モクセイ科
700	ヒイラギナンテン	メギ科
701	ヒカゲイノコズチ	ヒユ科
702	ヒカゲスゲ	カヤツリグサ科
703	ヒガンバナ	ヒガンバナ科
704	ヒキヨモギ	ハマウツボ科
705	ヒゲシバ	イネ科
706	ヒゴクサ	カヤツリグサ科
707	ヒサカキ	モッコク科
708	ヒタチクマガイソウ	ラン科
709	ヒツジグサ	スイレン科
710	ヒトツボクロ	ラン科
711	ヒトリシズカ	センリョウ科
712	ヒナスミレ	スミレ科
713	ヒナタイノコヅチ	ヒユ科
714	ヒナノシャクジョウ	ヒナノシャクジョウ科
715	ビナンカズラ(サネカズラ)	マツブサ科
716	ヒノキ	ヒノキ科
717	ヒマラヤスギ	マツ科
718	ヒメアシボソ	イネ科
719	ヒメオドリコソウ	シソ科
720	ヒメガマ	ガマ科
721	ヒメガンクビソウ	キク科
722	ヒメカンスゲ	カヤツリグサ科
723	ヒメキンギョソウ	オオバコ科
724	ヒメキンミズヒキ	バラ科
725	ヒメクズ（ノアズキ）	マメ科
726	ヒメコウゾ	クワ科
727	ヒメコヌカグサ	イネ科
728	ヒメコバンソウ	イネ科
729	ヒメジソ	シソ科
730	ヒメジョオン	キク科
731	ヒメシロネ	シソ科
732	ヒメスイバ	タデ科
733	ヒメスミレ	スミレ科
734	ヒメチドメ	ウコギ科
735	ヒメナエ	マチン科
736	ヒメナミキ	シソ科
737	ヒメノガリヤス	イネ科
738	ヒメハギ	ヒメハギ科

【 種子植物 】

No.	種　　名	LAPG科名
739	ヒメハッカ	シソ科
740	ヒメヘビイチゴ	バラ科
741	ヒメミカンソウ	コミカンソウ科
742	ヒメミクリ	ミクリ科
743	ヒメムカシヨモギ	キク科
744	ヒメヤブラン	クサスギカズラ科
745	ヒヨドリジョウゴ	ナス科
746	ヒヨドリバナ	キク科
747	ヒルガオ	ヒルガオ科
748	ヒルムシロ	ヒルムシロ科
749	ビワ	バラ科
750	フキ	キク科
751	フキノトウ	キク科
752	フクオウソウ	キク科
753	フジ	マメ科
754	フジカンゾウ	マメ科
755	フジキ	マメ科
756	フシグロセンノウ	ナデシコ科
757	フジバカマ	キク科
758	ブタクサモドキ	キク科
759	ブタナ	キク科
760	フタバムグラ	アカネ科
761	フタリシズカ	センリョウ科
762	フッキソウ	ツゲ科
763	フデリンドウ	リンドウ科
764	ブナ	ブナ科
765	フモトスミレ	スミレ科
766	フユイチゴ	バラ科
767	フユヅタ	オオバコ科
768	ヘクソカズラ	アカネ科
769	ベニカヤラン	ラン科
770	ベニバナボロギク	キク科
771	ヘビイチゴ	バラ科
772	ヘラオオバコ	オオバコ科
773	ヘラオモダカ	オモダカ科
774	ホウキギク	キク科
775	ホウチャクソウ	イヌサフラン科
776	ホオズキ	ナス科
777	ホオノキ	モクレン科
778	ホザキノミミカキグサ	タヌキモ科
779	ホシクサ	ホシクサ科
780	ホソアオゲイトウ	ヒユ科
781	ホソバウンラン	オオバコ科
782	ホソバコンギク	キク科
783	ホソバヒカゲスゲ	カヤツリグサ科
784	ホソバヒメミソハギ	ミソハギ科
785	ボダイジュ	アオイ科
786	ホタルイ	カヤツリグサ科
787	ホタルカズラ	ムラサキ科
788	ホタルブクロ	キキョウ科
789	ボタンヅル	キンポウゲ科
790	ホツツジ	ツツジ科
791	ホテイチク	イネ科

【 種子植物 】

No.	種　　名	LAPG科名
792	ホトケノザ	シソ科
793	ホトトギス	ユリ科
794	ボントクタデ	タデ科
795	マキノスミレ	スミレ科
796	マコモ	イネ科
797	マサキ	ニシキギ科
798	マダケ	イネ科
799	マタタビ	マタタビ科
800	マツカゼソウ	ミカン科
801	マツバウンラン	オオバコ科
802	マツバギク	ハマミズナ科
803	マツムシソウ	スイカズラ科
804	マツヨイグサ	アカバナ科
805	マテバシイ	ブナ科
806	ママコナ	ハマウツボ科
807	ママコノシリヌグイ	タデ科
808	マムシグサ	サトイモ科
809	マメアサガオ	ヒルガオ科
810	マメグンバイナズナ	アブラナ科
811	マユミ	ニシキギ科
812	マルバアオダモ	モクセイ科
813	マルバシャリンバイ	バラ科
814	マルバスミレ	スミレ科
815	マルバダケブキ	キク科
816	マルバヌスビトハギ	マメ科
817	マルバノイチヤクソウ	ツツジ科
818	マルバノホロシ	ナス科
819	マルバフジバカマ	キク科
820	マルバルコウ	ヒルガオ科
821	マンサク	マンサク科
822	マンネングサｓｐ	ベンケイソウ科
823	マンリョウ	サクラソウ科
824	ミクリ	ミクリ科
825	ミズ	イラクサ科
826	ミズオトギリ	オトギリソウ科
827	ミズキ	ミズキ科
828	ミズタマソウ	アカバナ科
829	ミズトンボ	ラン科
830	ミズナ	アブラナ科
831	ミズハナビ(コアゼガヤツリ)	カヤツリグサ科
832	ミズヒキ	タデ科
833	ミスミソウ	キンポウゲ科
834	ミズメ	カバノキ科
835	ミゾイチゴツナギ	イネ科
836	ミゾカクシ	キキョウ科
837	ミゾソバ	タデ科
838	ミソハギ	ミソハギ科
839	ミゾホオズキ	ハエドクソウ科
840	ミチヤナギ	タデ科
841	ミツバ	セリ科
842	ミツバアケビ	アケビ科
843	ミツバウツギ	ミツバウツギ科
844	ミツバツチグリ	バラ科

【 種子植物 】

No.	種　　名	LAPG科名
845	ミツバフウロ	フウロソウ科
846	ミミカキグサ	タヌキモ科
847	ミミガタテンナンショウ	サトイモ科
848	ミミナグサ	ナデシコ科
849	ミヤコグサ	マメ科
850	ミヤコザサ	イネ科
851	ミヤマウズラ	ラン科
852	ミヤマカタバミ	カタバミ科
853	ミヤマガマズミ	ガマズミ科
854	ミヤマカンスゲ	カヤツリグサ科
855	ミヤマキケマン	ケシ科
856	ミヤマシキミ	ミカン科
857	ミヤマシラスゲ	カヤツリグサ科
858	ミヤマトベラ	マメ科
859	ミヤマナルコユリ	クサスギカズラ科
860	ミヤマネコノメソウ（イワボタン）	ユキノシタ科
861	ミヤマフユイチゴ	バラ科
862	ミヤマミズ	イラクサ科
863	ミョウガ	ショウガ科
864	ムカゴイラクサ	イラクサ科
865	ムカゴニンジン	セリ科
866	ムカゴネコノメ	ユキノシタ科
867	ムカゴネコノメソウ	ユキノシタ科
868	ムギクサ	イネ科
869	ムクノキ	アサ科
870	ムクロジ	ムクロジ科
871	ムサシアブミ	サトイモ科
872	ムシクサ	オオバコ科
873	ムツオレグサ	イネ科
874	ムベ	アケビ科
875	ムヨウラン	ラン科
876	ムラサキケマン	ケシ科
877	ムラサキサギゴケ（サギゴケ）	サギゴケ科
878	ムラサキシキブ	シソ科
879	ムラサキツメクサ	マメ科
880	ムラサキニガナ	キク科
881	ムラサキミツバ	セリ科
882	ムラサキミミカキグサ	タヌキモ科
883	メガルカヤ	イネ科
884	メギ	メギ科
885	メキシコマンネングサ	ベンケイソウ科
886	メグスリノキ	ムクロジ科
887	メドハギ	マメ科
888	メナモミ	キク科
889	メヒシバ	イネ科
890	メマツヨイグサ	アカバナ科
891	メヤブマオ	イラクサ科
892	メリケンカルカヤ	イネ科
893	モウセンゴケ	モウセンゴケ科
894	モウソウチク	イネ科
895	モチノキ	モチノキ科
896	モッコク	モッコク科
897	モミ	マツ科

【 種子植物 】

No.	種　　名	LAPG科名
898	モミジイチゴ	バラ科
899	モミジガサ	キク科
900	モミジハグマ	キク科
901	ヤエムグラ	アカネ科
902	ヤクシソウ	キク科
903	ヤダケ	イネ科
904	ヤチカワズスゲ	カヤツリグサ科
905	ヤツデ	ウコギ科
906	ヤナギイノコヅチ	ヒユ科
907	ヤノネグサ	タデ科
908	ヤハズソウ	マメ科
909	ヤブガラシ(ビンボウカズラ)	ブドウ科
910	ヤブカンゾウ	ワスレグサ科
911	ヤブコウジ	サクラソウ科
912	ヤブジラミ	セリ科
913	ヤブタバコ	キク科
914	ヤブタビラコ	キク科
915	ヤブツバキ	ツバキ科
916	ヤブツルアズキ	マメ科
917	ヤブデマリ	ガマズミ科
918	ヤブニッケイ	クスノキ科
919	ヤブニンジン	セリ科
920	ヤブハギ	マメ科
921	ヤブヘビイチゴ	バラ科
922	ヤブマオ	イラクサ科
923	ヤブマメ	マメ科
924	ヤブミョウガ	ツユクサ科
925	ヤブムラサキ	シソ科
926	ヤブラン	クサスギカズラ科
927	ヤブレガサ	キク科
928	ヤマアジサイ	アジサイ科
929	ヤマイ	カヤツリグサ科
930	ヤマウグイスカグラ	スイカズラ科
931	ヤマウルシ	ウルシ科
932	ヤマガキ	カキノキ科
933	ヤマカシュウ	サルトリイバラ科
934	ヤマキツネノボタン	キンポウゲ科
935	ヤマグワ	クワ科
936	ヤマコウバシ	クスノキ科
937	ヤマザクラ	バラ科
938	ヤマジソ	シソ科
939	ヤマジノホトトギス	ユリ科
940	ヤマシロギク	キク科
941	ヤマゼリ	セリ科
942	ヤマタツナミソウ	シソ科
943	ヤマツツジ	ツツジ科
944	ヤマトキホコリ	イラクサ科
945	ヤマトミクリ	ミクリ科
946	ヤマトリカブト	キンポウゲ科
947	ヤマニガナ	キク科
948	ヤマネコノメソウ	ユキノシタ科
949	ヤマノイモ	ヤマノイモ科
950	ヤマハギ	マメ科

【 種子植物 】

No.	種　　名	LAPG科名
951	ヤマハッカ	シソ科
952	ヤマブキ	バラ科
953	ヤマボウシ	ミズキ科
954	ヤマホロシ	ナス科
955	ヤマモモ	ヤマモモ科
956	ヤマユリ	ユリ科
957	ヤマラッキョウ	ヒガンバナ科
958	ユウガギク	キク科
959	ユウシュンラン	ラン科
960	ユキノシタ	ユキノシタ科
961	ユズ	ミカン科
962	ユズリハ	ユズリハ科
963	ユリノキ	モクレン科
964	ユリワサビ	アブラナ科
965	ヨウシュヤマゴボウ	ヤマゴボウ科
966	ヨウラクラン	ラン科
967	ヨシ	イネ科
968	ヨツバムグラ	アカネ科
969	ヨモギ	キク科
970	ラッキョウヤダケ	イネ科
971	リュウキンカ	キンポウゲ科
972	リュウノウギク	キク科
973	リョウブ	リョウブ科
974	リンドウ	リンドウ科
975	リンボク	バラ科
976	レンゲツツジ	ツツジ科
977	ワニグチソウ	クサスギカズラ科
978	ワルナスビ	ナス科
979	ワレモコウ	バラ科

【 シダ植物 】

No.	種　　名	LAPG科名
1	アイアスカイノデ	オシダ科
2	アカフユノハナワラビ	ハナヤスリ科
3	アスカイノデ	オシダ科
4	イタチシダsp.	オシダ科
5	イヌカタヒバ	イワヒバ科
6	イヌガンソク	コウヤワラビ科
7	イヌシダ	コバノイシカグマ科
8	イヌドクサ	トクサ科
9	イヌワラビ	メシダ科
10	イノデ	オシダ科
11	イノデモドキ	オシダ科
12	イノモトソウ	イノモトソウ科
13	イワガネゼンマイ	イノモトソウ科
14	イワガネソウ	イノモトソウ科
15	イワヒメワラビ	コバノイシカグマ科
16	イワヘゴ	オシダ科
17	ウチワゴケ	コケシノブ科
18	ウラジロ	ウラジロ科
19	オウレンシダ	コバノイシカグマ科
20	オオイタチシダ	オシダ科
21	オオカナワラビ	オシダ科
22	オオキジノオ	キジノオシダ科
23	オオクジャクシダ	オシダ科
24	オオサトメシダ	メシダ科
25	オオハナワラビ	ハナヤスリ科
26	オオバノイノモトソウ	イノモトソウ科
27	オオベニシダ	オシダ科
28	オクマワラビ	オシダ科
29	オシダ	オシダ科
30	オニヤブソテツ	オシダ科
31	カタヒバ	イワヒバ科
32	カニクサ	カニクサ科
33	キジノオシダ	キジノオシダ科
34	キヨスミヒメワラビ	オシダ科
35	クサソテツ	コウヤワラビ科
36	クマワラビ	オシダ科
37	クモノスシダ	チャセンシダ科
38	クラマゴケ	イワヒバ科
39	クリハラン	ウラボシ科
40	ゲジゲジシダ	ヒメシダ科
41	コウヤコケシノブ	コケシノブ科
42	コウヤワラビ	コウヤワラビ科
43	コシダ	ウラジロ科
44	コタニワタリ	チャセンシダ科
45	コバノイシカグマ	コバノイシカグマ科
46	コバノヒノキシダ	チャセンシダ科
47	コヒロハハナヤスリ	ハナヤスリ科
48	コモチシダ	シシガシラ科
49	サイゴクベニシダ	オシダ科
50	シケシダ	メシダ科
51	シケチシダ	メシダ科
52	シシガシラ	シシガシラ科
53	シノブカグマ	オシダ科

【 シダ植物 】

No.	種　名	LAPG科名
54	ジュウモンジシダ	オシダ科
55	スギナ	トクサ科
56	ツヤナシイノデ	オシダ科
57	テリハヤブソテツ	オシダ科
58	トウゲシバ	ヒカゲノカズラ科
59	トウゴクシダ	オシダ科
60	トラノオシダ	チャセンシダ科
61	ナガバノイタチシダ	オシダ科
62	ナガバヤブソテツ	オシダ科
63	ナガホノナツノハナワラビ	ハナヤスリ科
64	ナツノハナワラビ	ハナヤスリ科
65	ニシキシダ	メシダ科
66	ノキシノブ	ウラボシ科
67	ハシゴシダ	ヒメシダ科
68	ハチジョウベニシダ	オシダ科
69	ハリガネワラビ	ヒメシダ科
70	ヒカゲノカズラ	ヒカゲノカズラ科
71	ヒタチオクマワラビ	オシダ科
72	ヒトツバ	ウラボシ科
73	ヒメイタチシダ	オシダ科
74	ヒメシダ	ヒメシダ科
75	ヒメノキシノブ	ウラボシ科
76	ヒメワラビ	ヒメシダ科
77	フクロシダ	イワデンダ科
78	フモトシダ	コバノイシカグマ科
79	フユノハナワラビ	ハナヤスリ科
80	ベニシダ	オシダ科
81	ヘビノネゴザ	メシダ科
82	ヘビヤマイヌワラビ	メシダ科
83	ホシダ	ヒメシダ科
84	ホソバイヌワラビ	メシダ科
85	ホソバシケシダ	メシダ科
86	ホソバトウゲシバ	ヒカゲノカズラ科
87	ホソバナライシダ	オシダ科
88	ホラシノブ	ホングウシダ科
89	マメヅタ	ウラボシ科
90	ミサキカグマ	オシダ科
91	ミズニラ	ミズニラ科
92	ミズワラビ	イノモトソウ科
93	ミゾシダ	ヒメシダ科
94	ミツデウラボシ	ウラボシ科
95	ミドリヒメワラビ	ヒメシダ科
96	ミヤマイタチシダ	オシダ科
97	ヤブソテツ	オシダ科
98	ヤマイタチシダ	オシダ科
99	ヤマイヌワラビ	メシダ科
100	ヤマドリゼンマイ	ゼンマイ科
101	ヤマヤブソテツ	オシダ科
102	ヤワラシダ	ヒメシダ科
103	リョウメンシダ	オシダ科
104	ワラビ	コバノイシカグマ科

【 コケ類 】

No.	種　名	科　名
1	アオギヌゴケ	アオギヌゴケ科
2	アオハイゴケ	アオギヌゴケ科
3	アカイチイゴケ	ハイゴケ科
4	アカウロコゴケ	ツボミゴケ科
5	アブラゴケ	アブラゴケ科
6	イクビゴケ	キセルゴケ科
7	イチョウウキゴケ	ウキゴケ科
8	イトハイゴケ	ハイゴケ科
9	イヌケゴケ	コゴメゴケ科
10	イワイトゴケ	シノブゴケ科
11	イワイトゴケモドキ	シノブゴケ科
12	ウキゴケ	ウキゴケ科
13	ウマスギゴケ	スギゴケ科
14	エゾサワゴケ	タマゴケ科
15	エゾスナゴケ	ギボウシゴケ科
16	エダウロコゴケモドキ	ヒゲゴケ科
17	オオサナダゴケモドキ	サナダゴケ科
18	オオトラノオゴケ	オオトラノオゴケ科
19	オオホウキゴケ	ツボミゴケ科
20	オオミズゴケ	ミズゴケ科
21	オタルヤバネゴケ	ヤバネゴケ科
22	カガミゴケ	ナガハシゴケ科
23	カゴシマヤスデゴケ	ヤスデゴケ科
24	カマハコミミゴケ	クサリゴケ科
25	カラヤスデゴケ	ヤスデゴケ科
26	キャラハゴケ	ハイゴケ科
27	キャラボクゴケ	ホウオウゴケ科
28	キヨスミイトゴケ	ハイヒモゴケ科
29	ギンゴケ	ハリガネゴケ科
30	クシノハスジゴケ	スジゴケ科
31	ケギボウシゴケ	ギボウシゴケ科
32	ケゼニゴケ	アズマゴケ科
33	コカヤゴケ	アオギヌゴケ科
34	コスギバゴケ	ムチゴケ科
35	コチョウチンゴケ	チョウチンゴケ科
36	コツボゴケ	チョウチンゴケ科
37	コハイゴケ	ハイゴケ科
38	コハネゴケ	ハネゴケ科
39	コバノチョウチンゴケ	チョウチンゴケ科
40	コバノヤバネゴケ	コヤバネゴケ科
41	コホウオウゴケ	ホウオウゴケ科
42	コムチゴケ	ムチゴケ科
43	コモチイトゴケ	ナガハシゴケ科
44	サヤゴケ	ヒナノハイゴケ科
45	サワクサリゴケ	クサリゴケ科
46	シシゴケ	シッポゴケ科
47	シッポゴケ	シッポゴケ科
48	ジャゴケ	ジャゴケ科
49	ジャバウルシゴケ	ヒメウルシゴケ科
50	ジンガサゴケ	ジンガサゴケ科
51	ジングウホウオウゴケ	ホウオウゴケ科
52	スギゴケ	スギゴケ科
53	スギバゴケ	ムチゴケ科

【 コケ類 】

No.	種　名	科　名
54	ゼニゴケ	ゼニゴケ科
55	タチバヨウジョウゴケ	クサリゴケ科
56	チヂミカヤゴケ	クラマゴケモドキ科
57	チヂミバコブゴケ	シッポゴケ科
58	チャボヒシャクゴケ	ヒシャクゴケ科
59	チャボヒラゴケ	ヒラゴケ科
60	チャボホラゴケモドキ	ツキヌキゴケ科
61	ツクシウロコゴケ	ウロコゴケ科
62	ツクシナギゴケモドキ	アオギヌゴケ科
63	ツクシホウオウゴケ	ホウオウゴケ科
64	ツチノウエノコゴケ	センボンゴケ科
65	ツボゴケ	チョウチンゴケ科
66	ツルチョウチンゴケ	チョウチンゴケ科
67	トウヨウチョウチンゴケ	チョウチンゴケ科
68	トサホラゴケモドキ	ツキヌキゴケ科
69	トヤマシノブゴケ	シノブゴケ科
70	ナガバチヂレゴケ	ギボウシゴケ科
71	ナガヒツジゴケ	アオギヌゴケ科
72	ナミガタタチゴケ	スギゴケ科
73	ナメリチョウチンゴケ	チョウチンゴケ科
74	ノコギリコオイゴケ	ヒシャクゴケ科
75	ノミハニワゴケ	シノブゴケ科
76	ハイゴケ	ハイゴケ科
77	ハネヒツジゴケ	アオギヌゴケ科
78	ハマキゴケ	センボンゴケ科
79	ハリガネゴケ	ハリガネゴケ科
80	ハリゴケ	シノブゴケ科
81	ヒジキゴケ	ヒジキゴケ科
82	ヒダゴケ	ギボウシゴケ科
83	ヒノキゴケ	ヒノキゴケ科
84	ヒメシノブゴケ	シノブゴケ科
85	ヒメジャゴケ	ジャゴケ科
86	ヒメスギゴケ	スギゴケ科
87	ヒメトサカゴケ	ウロコゴケ科
88	ヒメナギゴケ	アオギヌゴケ科
89	ヒメハイゴケ	ハイゴケ科
90	ヒメミノリゴケ	クサリゴケ科
91	フジウロコゴケ	ウロコゴケ科
92	フデゴケ	シッポゴケ科
93	ホソウリゴケ	ハリガネゴケ科
94	ホソバオキナゴケ	シラガゴケ科
95	ホソバギボウシゴケ	ギボウシゴケ科
96	ホソバミズゼニゴケ	ミズゼニゴケ科
97	ホソミツヤゴケ	ツヤゴケ科
98	マキノゴケ	マキノゴケ科
99	マキバサワゴケ	タマゴケ科
100	マルバハネゴケ	ハネゴケ科
101	ミヤマサナダゴケ	サナダゴケ科
102	ミヤマフタマタゴケ	フタマタゴケ科
103	ムチゴケ	ムチゴケ科
104	ヤノネゴケ	アオギヌゴケ科
105	ヤマトケビラゴケ	ケビラゴケ科
106	ヤマトコミミゴケ	クサリゴケ科

【 コケ類 】

No.	種　名	科　名
107	ヤマトフタマタゴケ	フタマタゴケ科
108	ヤマトフデゴケ	シッポゴケ科
109	ヤマトヨウジョウゴケ	クサリゴケ科
110	ユウレイホウオウゴケ	ウロコゴケ科
111	ユミゴケ	シッポゴケ科
112	ラセンゴケ	シノブゴケ科
113	リボンゴケ	ヒラゴケ科

【 藻類 】

No.	種　名	科　名
1	イシクラゲ	ラン藻類
2	カワモズク	カワモズク科
3	シャジクモ	シャジクモ科
4	ヒカリモ	金色藻類

【 地衣類 】

No.	種　名	科　名
1	アオバゴケ	マンジュウゴケ科
2	アカサルオガセ	ウメノキゴケ科
3	イワカラタチゴケ	カラタチゴケ科
4	イワタケ	イワタケ科
5	イワニクイボゴケ	トリハダゴケ科
6	ウチキウメノキゴケ	ウメノキゴケ科
7	ウメノキゴケ	ウメノキゴケ科
8	ウラジロゲジゲジゴケ	ムカデゴケ科
9	オオマツゲゴケ	ウメノキゴケ科
10	カバイロイワモジゴケ	モジゴケ科
11	カワラバマツゲゴケ	ムカデゴケ科
12	キウメノキゴケ	ウメノキゴケ科
13	キウラゲジゲジゴケ	ムカデゴケ科
14	キッコウイボゴケ	ニセクボミゴケ科
15	キンブチゴケ	カブトゴケ科
16	クロムカデゴケ	ムカデゴケ科
17	コアカミゴケ	ハナゴケ科
18	コウロコダイダイゴケ	ダイダイキノリ科
19	コツブダイダイサラゴケ	ダイダイサラゴケ科
20	コナアオキノリ	イワノリ科
21	コナアカムカデゴケ	ムカデゴケ科
22	コナイボゴケ	チャシブゴケ科
23	コナウメノキゴケ	ウメノキゴケ科
24	コナヒメウメノキゴケ	ウメノキゴケ科
25	コナロウソクモドキ	ロウソクゴケ科
26	コナロゼットチイ	ムカデゴケ科
27	コバノアオキノリ	イワノリ科
28	コフキゲジゲジゴケ	ムカデゴケ科
29	コフキトコブシゴケ	ウメノキゴケ科
30	コフキメダルチイ	ムカデゴケ科
31	コフクレサルオガセ	ウメノキゴケ科
32	コモジゴケ	モジゴケ科
33	ゴンゲンゴケ	ウメノキゴケ科
34	ジョウゴゴケモドキ	ハナゴケ科
35	シラゲムカデゴケ	ムカデゴケ科
36	センシゴケ	ウメノキゴケ科

【 地衣類 】

No.	種　　名	科　　名
37	ダイダイゴケ	テロスキステス科
38	ダイダイサラゴケ	ダイダイサラゴケ科
39	チヂレトコブシゴケ	ウメノキゴケ科
40	チヂレマツゲゴケ	ウメノキゴケ科
41	ツブダイダイゴケ	ダイダイキノリ科
42	トゲウチキウメノキゴケ	ウメノキゴケ科
43	トゲウメノキゴケ	ウメノキゴケ科
44	トゲハクテンゴケ	ウメノキゴケ科
45	トコブシゴケ	ウメノキゴケ科
46	ナガエノコアカミゴケ	ハナゴケ科
47	ナミガタウメノキゴケ	ウメノキゴケ科
48	ナメラクダチイ	ウメノキゴケ科
49	ナメラムカデゴケ	ムカデゴケ科
50	ニキビゴケの仲間	サネゴケ科
51	ニセヒメジョウゴゴケ	ハナゴケ科
52	ニセマツゲゴケ	ウメノキゴケ科
53	ヌカホソピンゴケ	ホソピンゴケ科
54	ノダケウメノキゴケ	ウメノキゴケ科
55	ハクテンゴケ	ウメノキゴケ科
56	ハコネゴンゲンゴケ	ウメノキゴケ科
57	ヒメイワタケ	イワタケ科
58	ヒメジョウゴゴケ	ハナゴケ科
59	ヒメミドリゴケの仲間	アナイボゴケ科
60	フタゴウオノメゴケ	トリハダゴケ科
61	ヘリトリゴケ	ヘリトリゴケ科
62	ホソカラタチゴケ	カラタチゴケ科
63	マツゲゴケ	ウメノキゴケ科
64	モジゴケの仲間	モジゴケ科
65	ヤマトエビラゴケ	カブトゴケ科
66	ヤマトキゴケ	キゴケ科
67	ヤリノホゴケ	ハナゴケ科
68	ヨロイゴケ	ヨロイゴケ科
69	レプラゴケの仲間	キゴケ科
70	ロウソクゴケ	ロウソクゴケ科

【 菌類 】

No.	種　　名	科　　名
1	アミガサタケ	アミガサタケ科
2	アラゲキクラゲ	キクラゲ科
3	カイガラダケの仲間	サルノコシカケ科
4	カワラタケ	サルノコシカケ科
5	キツネノエフデ	スッポンタケ科
6	キツネノチャブクロ	ホコリタケ科
7	サルノコシカケ	サルノコシカケ科
8	シロオニタケ	テングタケ科
9	タヌキノチャブクロ	ホコリタケ科
10	タマゴタケ	テングタケ科
11	ツチグリ	ツチグリ科
12	ハタケシメジ	キシメジ科
13	ハナビラニカワタケ	シロキクラゲ科
14	ヒイロタケ	サルノコシカケ科
15	ヒトクチタケ	サルノコシカケ科
16	ヒナツチガキ	ヒメツチグリ科

【 菌類 】

No.	種　　名	科　　名
17	ヒラタケ	ヒラタケ科
18	ヒロタケ	サルノコシカケ科
19	ホウキタケ	ホウキタケ科
20	ホコリタケ	ホコリタケ科
21	ムラサキシメジ	キシメジ科

【 哺乳類 】

No.	種　　名	科　　名
1	アズマモグラ	モグラ科
2	アライグマ	アライグマ科
3	イノシシ	イノシシ科
4	タヌキ	イヌ科
5	ニホンリス	リス科
6	ノウサギ	ウサギ科
7	ハクビシン	ジャコウネコ科
8	ムササビ	リス科

【 鳥類 】

No.	種　　名	科　　名
1	アオサギ	サギ科
2	アオジ	ホオジロ科
3	アオシギ	シギ科
4	アトリ	アトリ科
5	アマサギ	サギ科
6	ウグイス	ヒタキ科
7	ウソ	アトリ科
8	エナガ	エナガ科
9	オオタカ	タカ科
10	オオハクチョウ	ガンカモ科
11	オオバン	クイナ科
12	オオルリ	ヒタキ科
13	オシドリ	ガンカモ科
14	カイツブリ	カイツブリ科
15	カケス	カラス科
16	カシラダカ	ホオジロ科
17	カッコウ	カッコウ科
18	カルガモ	ガンカモ科
19	カワウ	ウ科
20	カワセミ	カワセミ科
21	カワラヒワ	アトリ科
22	キジ	キジ科
23	キジバト	ハト科
24	キセキレイ	セキレイ科
25	キンクロハジロ	ガンカモ科科
26	コガモ	ガンカモ科
27	コゲラ	キツツキ科
28	コサギ	サギ科
29	コシアカツバメ	ツバメ科
30	サシバ	ワシタカ科
31	サンコウチョウ	ヒタキ科
32	シジュウカラ	シジュウカラ科
33	ジョウビタキ	ヒタキ科
34	スズメ	ハタオリドリ科
35	セグロセキレイ	セキレイ科

【 鳥類 】

No.	種　　名	科　　名
36	ソウシチョウ	チメドリ科
37	ダイサギ	サギ科
38	チュウサギ	サギ科
39	ツグミ	ヒタキ科
40	ツバメ	ツバメ科
41	トラツグミ	ヒタキ科
42	ノスリ	ワシタカ科
43	ハクセキレイ	セキレイ科
44	ハシビロガモ	ガンカモ科
45	ハヤブサ	ハヤブサ科
46	バン	クイナ科
47	ヒドリガモ	ガンカモ科
48	ヒバリ	ヒバリ科
49	ヒヨドリ	ヒヨドリ科
50	ビンズイ	セキレイ科
51	ベニマシコ	アトリ科
52	ホオジロ	ホオジロ科
53	ホシハジロ	ガンカモ科
54	マガモ	ガンカモ科
55	ミヤマホオジロ	ホオジロ科
56	ムクドリ	ムクドリ科
57	メジロ	メジロ科
58	モズ	モズ科
59	ヤマガラ	シジュウカラ科
60	ヤマセミ	カワセミ科
61	ヨシガモ	ガンカモ科
62	ヨシゴイ	サギ科
63	ヨタカ	ヨタカ科
64	ルリビタキ	ヒタキ科

【 は虫類 】

No.	種　　名	科　　名
1	アオダイショウ	ナミヘビ科
2	アカミミガメ	ヌマガメ科
3	カナヘビ	カナヘビ科
4	シマヘビ	ﾀﾐヘビ科
5	シロマダラ	ナミヘビ科
6	トカゲ	トカゲ科
7	ニホンヤモリ	ヤモリ科
8	マムシ	クサリヘビ科
9	ヤマカガシ	ヘビ科

【 両生類 】

No.	種　　名	科　　名
1	アズマヒキガエル	ヒキガエル科
2	アマガエル	アマガエル科
3	イモリ	イモリ科
4	ウシガエル	アカガエル科
5	カジカガエル	アオガエル科
6	シュレーゲルアオガエル	アオガエル科
※	トウキョウサンショウウオ	サンショウウオ科
8	トウキョウダルマガエル	アカガエル科
9	ニホンアカガエル	アカガエル科
10	ヤマアカガエル	アカガエル科

【 魚類 】

No.	種　　名	科　　名
1	ギバチ	ギギ科
2	キンブナ	コイ科
3	クチボソ	コイ科
4	サケ	サケ科
5	シマドジョウ	ドジョウ科
6	スナヤツメ北方種	ヤツメウナギ科
7	タイリクバラタナゴ	コイ科
8	ドジョウ	ドジョウ科
9	ヌマムツ	コイ科
10	フナ	コイ科
11	ホトケドジョウ	ドジョウ科
12	メダカ	メダカ科
13	ヤマメ無斑型	サケ科
14	ヤリタナゴ	コイ科

【 節足動物・昆虫類_トンボ】

No.	種　　名	科　　名
1	アオイトトンボ	アオイトトンボ科
2	アオハダトンボ	カワトンボ科
3	アオモンイトトンボ	イトトンボ科
4	アキアカネ	トンボ科
5	アジアイトトンボ	イトトンボ科
6	オオアオイトトンボ	アオイトトンボ科
7	オオイトトンボ	イトトンボ科
8	オオシオカラトンボ	トンボ科
9	オオルリボシヤンマ	ヤンマ科
10	オゼイトトンボ	イトトンボ科
11	オツネントンボ	アオイトトンボ科
12	オニヤンマ	オニヤンマ科
13	キイトトンボ	イトトンボ科
14	ギンヤンマ	ヤンマ科
15	クロスジギンヤンマ	ヤンマ科
16	コオニヤンマ	サナエトンボ科
17	コサナエ	サナエトンボ科
18	コシアキトンボ	トンボ科
19	サラサヤンマ	ヤンマ科
20	シオカラトンボ	トンボ科
21	シオヤトンボ	トンボ科
22	ショウジョウトンボ	トンボ科
23	チョウトンボ	トンボ科
24	ナゴヤサナエ	サナエトンボ科
25	ナツアカネ	トンボ科
26	ニホンカワトンボ	カワトンボ科
27	ノシメトンボ	トンボ科
28	ハグロトンボ	カワトンボ科
29	ハッチョウトンボ	トンボ科
30	ハラビロトンボ	トンボ科
31	ホソミオツネントンボ	アオイトトンボ科
32	マユタテアカネ	トンボ科
33	ミヤマアカネ	トンボ科
34	ムカシトンボ	ムカシトンボ科
35	ムカシヤンマ	ムカシヤンマ科
36	モノサシトンボ	モノサシトンボ科
37	ヤマサナエ	サナエトンボ科

【 節足動物・昆虫類_チョウ】

No.	種　　名	科　　名
1	アオスジアゲハ	アゲハチョウ科
2	アカシジミ	シジミチョウ科
3	アカタテハ	タテハチョウ科
4	アカボシゴマダラ	タテハチョウ科
5	アゲハ	アゲハチョウ科
6	アゲハモドキ	アゲハモドキガ科
7	アケビコノハ	ヤガ科
8	アサギマダラ	タテハチョウ科
9	アサマイチモンジ	タテハチョウ科
10	イチモンジセセリ	セセリチョウ科
11	イチモンジチョウ	タテハチョウ科
12	イラガ	イラガ科
13	ウラギンシジミ	シジミチョウ科
14	ウラギンスジヒョウモン	タテハチョウ科
15	ウラナミアカシジミ	シジミチョウ科
16	ウラナミシジミ	シジミチョウ科
17	オオチャバネセセリ	セセリチョウ科
18	オオミスジ	タテハチョウ科
19	オオムラサキ	タテハチョウ科
20	オナガアゲハ	アゲハチョウ科
21	カノコガ	カノコガ科
22	カラスアゲハ	アゲハチョウ科
23	キアゲハ	アゲハチョウ科
24	キタテハ	タテハチョウ科
25	キチョウ	シロチョウ科
26	キマダラセセリ	セセリチョウ科
27	クモガタヒョウモン	タテハチョウ科
28	クロアゲハ	アゲハチョウ科
29	クロコノマチョウ	タテハチョウ科
30	クロヒカゲ	ジャノメチョウ科
31	ゴイシシジミ	シジミチョウ科
32	コツバメ	シジミチョウ科
33	ゴマダラチョウ	タテハチョウ科
34	コミスジ	タテハチョウ科
35	サトキマダラヒカゲ	ヒカゲチョウ科
36	ジャコウアゲハ	アゲハチョウ科
37	スジグロシロチョウ	シロチョウ科
38	セスジスズメ	スズメガ科
39	ダイミョウセセリ	セセリチョウ科
40	チャドクガ	ドクガ科
41	チャバネセセリ	セセリチョウ科
42	ツバメシジミ	シジミチョウ科
43	ツマキチョウ	シロチョウ科
44	ツマグロキチョウ	シロチョウ科
45	ツマグロヒョウモン	タテハチョウ科
46	テングチョウ	タテハチョウ科
47	ナガサキアゲハ	アゲハチョウ科
48	ヒオドシチョウ	タテハチョウ科
49	ヒカゲチョウ	ジャノメチョウ科
50	ヒメアカタテハ	タテハチョウ科
51	ヒメウラナミジャノメ	ジャノメチョウ科
52	ヒメキマダラセセリ	セセリチョウ科
53	ヒメジャノメ	ジャノメチョウ科

【 節足動物・昆虫類_チョウ】

No.	種　　名	科　　名
54	フクラスズメガ	ヤガ科
55	ベニシジミ	シジミチョウ科
56	ヘリグロチャバネセセリ	セセリチョウ科
57	ホシホウジャク	スズメガ科
58	ホソバセセリ	セセリチョウ科
59	ホタルガ	マダラガ科
60	ミドリシジミ	シジミチョウ科
61	ミドリヒョウモン	タテハチョウ科
62	ミヤマセセリ	セセリチョウ科
63	ムラサキシジミ	シジミチョウ科
64	メスグロヒョウモン	タテハチョウ科
65	モンキチョウ	シロチョウ科
66	モンシロチョウ	シロチョウ科
67	ヤマトシジミ	シジミチョウ科
68	ルリシジミ	シジミチョウ科
69	ルリタテハ	タテハチョウ科

【 節足動物・昆虫類】

No.	種　　名	科　　名
1	アオマツムシ	マツムシ科
2	アカハナカミキリ	カミキリムシ科
3	アシグロツユムシ	ツユムシ科
4	アブラゼミ	セミ科
5	アメンボ	アメンボ科
6	イナゴ	イナゴ科
7	エダナナフシ	ナナフシ科
8	オオアカマルノミハムシ	ハムシ科
9	オオカマキリ	カマキリ科
10	オオスズメバチ	スズメバチ科
11	オトシブミ	オトシブミ科科
12	オンブバッタ	オンブバッタ科
13	カクムネベニボタル♀	ベニボタル科
14	カナブン	コガネムシ科
15	カブトムシ	コガネムシ科
16	カマドウマ	カマドウマ科
17	キイロスズメバチ	スズメバチ科
18	キオビツチバチ	ツチバチ科
19	キゴシハナアブ	ハナアブ科
20	キマワリ	ゴミムシダマシ科
21	クマバチ	ミツバチ科
22	クモヘリカメムシ	ヘリカメムシ科
23	クロウリハムシ	ハムシ科
24	クロマドボタル	ホタル科
25	クワカミキリ	カミキリムシ科
26	ゲンジボタル	ホタル科
27	コアオハナムグリ	コガネムシ科
28	コオイムシ	コオイムシ科
29	コガネオオハリバエ	ヤドリバエ科
30	コカマキリ	カマキリ科
31	コクワガタ	クワガタムシ科
32	ゴマダラカミキリ	カミキリムシ科
33	シオヤアブ	ムシヒキアブ科
34	シマハナアブ	ハナアブ科

【 節足動物・昆虫類】

No.	種　　名	科　　名
35	ショウリョウバッタ	バッタ科
36	シロテンハナムグリ	コガネムシ科
37	ジンガサハムシ	ハムシ科
38	センチコガネ	コガネムシ科
39	タイコウチ	タイコウチ科
40	タガメ	コオイムシ科
41	ツクツクボウシ	セミ科
42	テントウムシ	テントウムシ科
43	トゲアリ	アリ科
44	トビイロツノゼミ	ツノゼミ科
45	トラマルハナバチ	ミツバチ科
46	ナナホシテントウ	テントウムシ科
47	ニイニイゼミ	セミ科
48	ニホンミツバチ	ミツバチ科
49	ノコギリクワガタ	クワガタムシ科
50	ハサミツノカメムシ	ツノカメムシ科
51	ハナアブ	ハナアブ科
52	ハラアカヤドリハキリバチ	ハキリバチ科
53	ハラナガツチバチ	ツチバチ科
54	ハンミョウ	ハンミョウ科
55	ヒグラシゼミ	セミ科
56	ヒメギス	キリギス科
57	ヒメツツハキリバチ	ハキリバチ科
58	ヒメハルゼミ	セミ科
59	ヒメヒラタアブ	ハナアブ科
60	ヘイケボタル	ホタル科
61	ベッコウハゴロモ	ハゴロモ科
62	ホソヒラタアブ	ハナアブ科
63	マイマイカブリ	オサムシ科
64	マメコガネ	コガネムシ科
65	ミズスマシ	ゲンゴロウ科
66	ミドリカミキリ	カミキリムシ科
67	ミノムシ	ミノガ科
68	ミヤマカミキリ	カミキリムシ科
69	ミンミンゼミ	セミ科
70	ヤマトゴキブリ	ゴキブリ科
71	ヤマトシリアゲ	シリアゲムシ科
72	ヤマトタマムシ	タマムシ科
73	ヤマトフキバッタ	フキバッタ科
74	ヨコヅナサシガメ	サシガメ科
75	ヨツスジハナカミキリ	カミキリムシ科

【 節足動物・クモ類 】

No.	種　　名	科　　名
1	アカズムカデ	オオムカデ科
2	アカムカデ	メナシムカデ科
3	コガネグモ	コガネグモ科
4	ゴミグモ	コガネグモ科
5	サワガニ	サワガニ科
6	ジグモ	ジグモ科
7	ジョロウグモ	ジョロウグモ科
8	トタテグモ	トタテグモ科
9	ナガコガネグモ	コガネグモ科
10	ヌカエビ	ヌマエビ科

【 軟体動物 】

No.	種　　名	科　　名
1	イシガイ	イシガイ科
2	ウスカワマイマイ	オナジマイマイ科
3	オカチョウジガイ	オカチョウジガイ科
4	カラスガイ	イシガイ科
5	カワニナ	カワニナ科
6	カントウベッコウ	ベッコウマイマイ科
7	キセルガイモドキ	キセルガイモドキ科
8	キビガイ	ベッコウマイマイ科
9	ケシガイ	ケシガイ科
10	コニッポンマイマイ	ニッポンマイマイ科
11	コハクオナジマイマイ	オナジマイマイ科
12	ササミケマイマイ	オナジマイマイ科
13	タワラガイ	タワラガイ科
14	ツムガタモドキギセル	キセルガイ科
15	ドブガイ	イシガイ科
16	ナミギセル	キセルガイ科
17	ニッポンマイマイ	ニッポンマイマイ科
18	ヒタチマイマイ	オナジマイマイ科
19	ヒダリマキマイマイ	オナジマイマイ科
20	ヒメギセル	キセルガイ科
21	ベッコウマイマイ	ベッコウマイマイ科
22	マルシタラガイ	ベッコウマイマイ科
23	マルタニシ	タニシ科
24	ムシオイガイ	ムシオイガイ科
25	モノアラガイ	モノアラガイ科
26	ヤマキサゴ	ヤマキサゴ科
27	ヤマタニシ	ヤマタニシ科

※両生類のトウキョウサンショウウオ（茨城県産）は，2022年に
新種イワキサンショウウオとして発表されました。

笠間市周辺で見られる主な地衣類の検索表

Ⅰ　地衣体は痂状で，基物に固着している（固着地衣：痂状地衣）
1ａ　胞子を入れる器（子器）は地衣体上にある（裸子器）
2ａ　地衣体は淡黄緑色の顆粒状～痂状。高さ１㎜前後の微小な待ち針状。子器は黒色で灰色～灰黄色の粉末（粉霜）がつく。朽木・古木材に着生。　……ヌカホソピンゴケ
2ｂ　地衣体は灰白色～淡桃色で厚く，区画に分離。子器は円盤状で，辺縁（果穀や果托）に囲まれた盤は黄褐色～淡紅色で放射状模様がある。岩。……イワニクイボゴケ
2ｃ　地衣体は黄緑色～橙黄色で，顆粒状。子器は径約1.5㎜の円盤状。
3ａ　黄緑色～橙黄色のやや顆粒状で薄い。子器は無柄の皿状で，盤に白色の粉霜をつける。樹。……ダイダイゴケ
3ｂ　灰緑色で薄い膜状。子器は無柄の円形皿状で，盤は橙黄色で扁平。樹。……コツブダイダイサラゴケ
2ｄ　地衣体は黄色の鱗状で基物に圧着。子器は無柄の皿状。盤は橙黄色。コンクリート・スレート瓦。……コウロコダイダイゴケ
2ｅ　地衣体は鱗状から発達し小区画となる。コロニーは円形で，やや白っぽく見える。子器は無柄皿状。盤は茶色～濃橙色。コンクリート。……ツブダイダイゴケ
2ｆ　地衣体は黄色の粉状～顆粒状～鱗状で多数集合。樹。……コナロウソクゴケモドキ
2ｇ　地衣体は灰白色～淡青緑色で薄い膜状。子器は皿状で，盤は灰黒色～青緑色。岩。……ヘリトリゴケ
2ｈ　地衣体は帯黄灰白色で薄い膜状。子器は皿状で縁部は波状になる。盤は帯黄褐色～淡黄色で平坦。樹。……コナイボゴケ
1ｂ　子器は地衣体の中に埋没している（被子器）
4ａ　地衣体は灰緑色の類円形で厚く，生葉のクチクラ層の下に生育。……アオバゴケ
4ｂ　地衣体は類白色で薄く，樹皮や岩の表面に固着。子器の出口は細長く線状（文字状）。
5ａ　岩上に着生。……カバイロイワモジゴケ
5ｂ　樹皮に着生。
6ａ　白色～黄褐色。子器は紐状で埋没～半突出。細長く伸長して裸子器状になり，長軸に沿って溝を作る。……セスジモジゴケ
6ｂ　灰白色。子器は黒色の紐状で，盛んに分岐し地衣体に埋没して上部のみが現れる。……ホソモジゴケ（Ｋ－，Ｐ－），コモジゴケ（Ｋ＋赤色，Ｐ＋黄色）
6ｃ　灰緑色～暗緑色。子器は地衣体に埋没し，淡色で細紐状。……スジモジゴケ
6ｄ　類褐色。岩石面に薄く平らに広がり，亀の甲羅状に亀裂。……チャキッコウゴケ
6ｅ　灰緑色～灰白色。地衣体上に不定形の疣状の突起物（中に胞子がある）が散生する。樹。……コブトリハダゴケ
Ⅱ　地衣体は葉状で，基物にふんわりと着生している種が多い（葉状地衣）
1ａ　褐色の単葉。黒色の裏面中央部の臍緒状の突起（臍状体）で岩面に着生。　……イワタケ
1ｂ　地衣体は小形～中型。付着用の根状突起（偽根）か腹面で着生。
2ａ　地衣体背面は灰白色～灰褐色で，皮層を欠く粉末（粉芽）を持つ。樹・岩。
3ａ　髄は橙赤色。裂片の先端が橙赤色に縁取られる。……コカゲチイ
3ｂ　髄は白色。
4ａ　球状の粉芽塊がある。先端部は明確に分離する。……シロムカデゴケ
4ｂ　中央部に円形の粉芽塊を多数つける。裂片の先端に白粉をつけて明確には分離せず。腹面は黒色。……コフキメダルチイ
4ｃ　小半球状の粉芽塊を多数つける。腹面も白色。……コナロゼットチイ
2ｂ　地衣体は灰緑色～緑褐色で，葉縁に粉芽塊をつける。髄は白色。腹面は黒褐色。偽根は黒色で葉縁からはみ出る。樹・岩。……クロムカデゴケ
2ｃ　地衣体は黄色～黄緑色の類円形（径約１㎝）で，多数が集合。背腹に皮層があり，裂芽をつける。髄は白色。樹・岩・コンクリート。……ロウソクゴケ
1ｃ　地衣体は径約５㎝以上の大形。偽根で基物に着生。髄層は白色。子器は類円形。樹・岩。
5ａ　地衣体は灰白色～灰緑色。
6ａ　髄は白色。背面に皮層を突き破る小さな孔（擬盃点）がある。

7ａ　粉芽や裂芽は無い。子器は裂片の縁部に生じ，腹面は黒色で偽根がある。
8ａ　葉縁部は細分枝して小裂片になる。擬盃点は小さい。……チヂレトコブシゴケ
8ｂ　葉縁は細裂せず。擬盃点は大きい。……トコブシゴケ
7ｂ　粉芽か皮層を持つ小さな突起物（裂芽）がある。腹面は黒色。背面に子器がつく。偽根は単一。
9ａ　裂芽があり，粉芽はない。裏面は淡灰白色。……トゲハクテンゴケ
9ｂ　裂芽はなく，粉芽がある。裏面は暗褐色。……ハクテンゴケ
6ｂ　背面に擬盃点はない
10ａ　葉縁にまつげのような毛（シリア）をもつ
11ａ　背面に亀裂状の斑点（マキラ）や粉芽塊がある。裂辺は広く先端は丸い。
12ａ　粉芽塊が有る腹面の先端は淡褐色～白色。　……マツゲゴケ
12ｂ　粉芽塊が有る腹面の先端は黒色。　……オオマツゲゴケ
11ｂ　背面にマキラは無いが，円柱状の裂芽があり，葉縁に偽根と同様なシリアがある。　……トゲウメノキゴケ
10ｂ　葉縁にシリアを欠く。
13ａ　裂片に粉芽か裂芽を持つ。偽根は単一。
14ａ　円柱状の裂芽がある。　……ウメノキゴケ
14ｂ　裂片の先端に波状の粉芽塊がある。　……ナミガタウメノキゴケ
13ｂ　裂片に泡芽（後に粉芽化）がある。偽根は叉状分枝。
……　ゴンゲンゴケ（ＵＶ＋黄金色の蛍光），ハコネゴンゲンゴケ（ＵＶ－）
6ｃ　髄層は類黄色。樹・岩。
15ａ　背面に円柱状の裂芽がある。　……トゲウチキウメノキゴケ
15ｂ　背面に粉芽塊がある。　……コナウチキウメノキゴケ
5ｂ　地衣体は黄緑色。腹面は黒色で，先端は褐色で偽根を欠き裸出。……キウメノキゴケ
5ｃ　地衣体は類緑色。葉縁に黄金色の粉芽塊をつける。裂片の先端近くに白色の綿毛（トメンタ）をつけ，腹面に黄色の擬盃点をつける。樹・岩。　……キンプチゴケ
1ｄ　爪状褐色の子器を裂辺の辺縁に生じる。地衣体は褐色～暗緑色。背面にトメンタがあり，腹面に白色脈がある。地・朽木。……イヌツメゴケ
Ⅲ　地衣体は樹枝状（樹枝状地衣）
1ａ　地衣体は顆粒状または痂状で，地衣体から立ち上がる柄（子柄）は中空でよく発達する。
2ａ　子柄は灰緑色の単一棒状で，先端に子器をつける。
3ａ　子器は赤色。
4ａ　子柄は灰緑色で全体に粉芽をつけ，先端に球状の子器をつける。基本葉体は殆ど見られず，盃は作らない。腐木・地・岩。……コアカミゴケ
4ｂ　子柄は灰緑色～帯黄緑色で，同色の細粉状粉芽をつける。盃はなく，先端に子器をつける。基本葉体はある。地。……ナガエノコアカミゴケ
3ｂ　子器は褐色。子柄は灰白色～淡緑色でラッパ状の盃をつける（ヤグラ状にはならない）。盃に粉芽が有る。地。　……ヒメジョウゴゴケ
2ｂ　子柄は灰白色～淡緑色の単一棒状。先端は尖るか狭い盃をもつ。皮層は基部のみで，他は細粉状粉芽で覆われる。樹・地。……ヤリノホゴケ
2ｃ　子柄は灰白色～淡緑色のヤグラ状。盃は盃底中央からが反復する。地。
……ホソヤグラゴケ
1ｂ　地衣体は灰色～淡褐色の柱状で枝分かれし，片側に密にサンゴ状の棘枝がある。暗緑色の小袋（頭状体）を持ち，頂部に黒色球状の子器をつける。岩。　……ヤマトキゴケ
1ｃ　地衣体（子柄）は灰白色～淡緑色の樹状で，基物に直立するか垂れている。
5ａ　円柱状の樹状で，先端で細裂し微細な粉芽塊を付ける。岩。……ホソカラタチゴケ
5ｂ　扁平な樹状で，分枝の先端に粉芽塊がある。岩。……イワカラタチゴケ
Ⅳ　地衣体は糸状で，基物から垂れる。断面は円形。皮層に赤色の色素があるので表面は赤～赤褐色で，軸は中実。枝は主軸が先端まで曲がりながら通る。太い枝に円柱状の粒状の突起（パピラ）をつける。樹。　……アカサルオガセ

編　集　　かさま環境を考える会

発行日　　令和５年３月

発　行　　笠間市市民生活部 環境政策課
〒309-1792
笠間市中央三丁目2番1号